

株式会社NITTAN (6493)



2025年3月期第2四半期 (中間期) 決算説明会

2024年12月5日

代表取締役社長 リ テーフアン
李 太 煥



M & Aにより子会社化した恵那金属製作所の概要



(1) 名称	株式会社恵那金属製作所	 
(2) 本社所在地	岐阜県中津川市小川町 2 番18号	
(3) 設立年月日	2018年 4 月25日 (創業1946年3月)	
(4) 代表者の役職・氏名	代表取締役 市岡 真二	
(5) 資本金 (2023年12月期)	100百万円	
(6) 従業員数 (2023年12月期)	185名 (国内：110名、海外：75名)	
(7) 年商 (2023年12月期)	連結：26億円	
(8) 事業内容と特徴	<p>①機械加工業</p> <ul style="list-style-type: none"> 加工難易度が高い材質“難削材”を使用したタービンハウジングの切削加工を行っている 自動車部品・航空機部品・釣り具部品・測定器用部品など豊富な業界対応を行っている <p>②表面処理業</p> <ul style="list-style-type: none"> 装飾目的から機能目的まで多品種小ロットのめっき、塗装に対応している <p>③不動産賃貸業</p>	

代表取締役
市岡 真二

恵那金属製作所
本社

- 2024年10月2日に同社発行済普通株式の全てを取得し、子会社化完了
- 2025年1月1日に「株式会社NITTAN恵那金属」へ商号変更を行う予定



恵那金属製作所

切削加工技術

材料から不要な部分を削り落として、
製品を作る加工法

■ 対象の切削素材

- ① 熱鋳鋼(ステンレス鋳物)
- ② 鋳鉄難削・難形状の鋳物
- ③ アルミダイカスト
- ④ アルミ鋳物

表面処理技術

目的とする機能や性能を素材の表面に、
付加する工法

■ 対象の表面処理

- ① 電気めっき
- ② 無電解めっき
- ③ 電解研磨
- ④ 溶剤塗装

シナジー効果

既存事業

&

新規事業

■ 事業提携を通じ、両社の既存事業の付加価値向上に取り組む

■ 経営資源の共有を行い、中長期経営ビジョン達成のための新規事業化に繋げる

1部： 当社概要

**2部： 2025年3月期第2四半期（中間期）決算
及び通期業績見通し**

3部： 中長期戦略及び新たなトピックスについて

1. 会社概要
2. パーパス
3. ルーツおよび成り立ち
4. コア技術の紹介
5. 生産拠点
6. 売上高及び事業セグメント別比率
7. 事業領域
8. 国内・海外 主要お取引先様比率
9. エンジンバルブ当社推定シェア(グローバル)

1. 会社概要



本社所在地	秦野本社：神奈川県秦野市曾屋518番地 東京本社：東京都新宿区西新宿8-4-2 野村不動産西新宿ビル2階
設立	1948年11月10日
代表者	代表取締役社長 李 太煥
資本金 (2024年3月期)	45億3,054万円
年商 (2024年3月期)	連結：494億円
従業員数 (2024年3月期)	2,579名 (国内：684名、海外：1,895名)



多様な技術を駆使し、 脱炭素化社会の実現に貢献する

パーパス設定の理由

- カーボンニュートラル実現のためには、電動化(BEV)だけではなく、内燃機関を活用するアプローチが有効的と言える
- 全方位的アプローチ(HEV/PHEV/e-Fuel/H₂/NH₃/BEV/FCEV)に、既存技術力と新商品開発力で、市場のニーズに応じて行く

3-1. 当社のルーツ



設立年度：1924年



恩加島鉄工所（大阪市）

柴柳新二が
「日本の鍛造業を立派な
ものにしたい」との志を持って設立

1934年に西ドイツから
電気アプセッターを買い入れ、
日本初のエンジンバルブの量産化

設立年度：1937年



日本鍛工株式会社

柴柳新二が
日本鍛工株式会社を設立し、
恩加島鉄工所を合併

1938年川崎工場設立（現：(株)シンニッタン）
1941年尼崎工場設立（現：日本鍛工(株)）

設立年度：1943年



日本鍛工株式会社 秦野工場

日本鍛工(株)が
秦野工場を設立

航空機用エンジンバルブ
の製造を目的に設立
(現在は製造していません)

3-2. 当社の成り立ち

設立年度：1948年



日鍛バルブ製造株式会社
⇒ **日鍛バルブ株式会社**
(商号変更：1961年)

**企業再建整備法による分離に伴い、
秦野工場が独立**

日本鍛工(株)の「日」と「鍛」を引き継ぎ、
主力製品であるエンジンバルブの
「バルブ」を繋げた社名とした

2022年～現在



株式会社NITTAN

“電動化に真摯に向き合う決意”

主力製品であるエンジンバルブに限らず、
電動化領域にも果敢に挑戦する姿勢を
こめた社名にした

4. NITTANが培ってきたコア技術の紹介



鍛造技術

高温に熱した金属をプレスし
金型成形する鍛造加工法

盛金技術

要求される性質を持つ
他の金属を溶融して部品の
必要部位に溶着させる工法

接合技術

異なる性質をもつ金属を
一体化させる工法

加工技術

所定の形状や性質に金属を
仕上げる工法

■この4つのコア技術を駆使し、NITTAN特有の製品を供給している

5. NITTANグループ生産拠点 (●国内, ●海外)



■ 恵那金属製作所が加わり、国内3拠点、
海外15拠点 (アセアン・アジア : 13、北米・欧州 : 2) となった

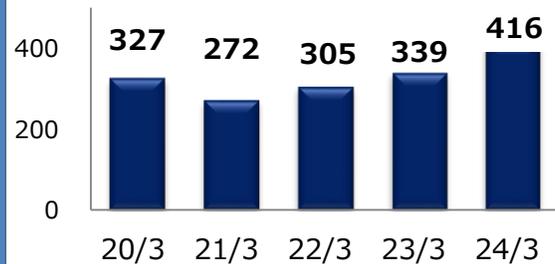
6. 事業領域

小型エンジンバルブ事業



小型エンジンバルブ事業売上高（連結）

(単位：億円)

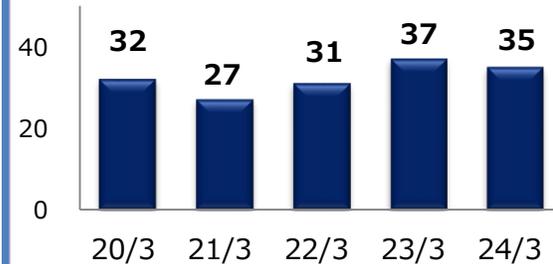


船用部品事業



船用部品事業売上高（連結）

(単位：億円)

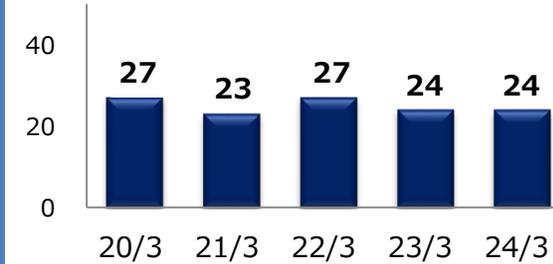


歯車事業



歯車事業売上高（連結）

(単位：億円)

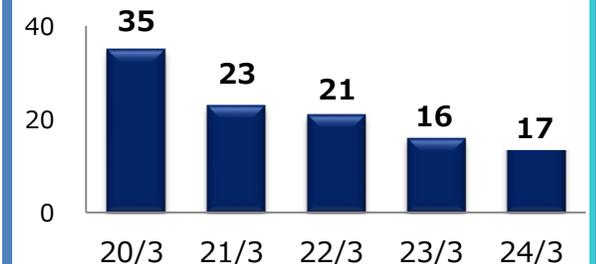


その他事業



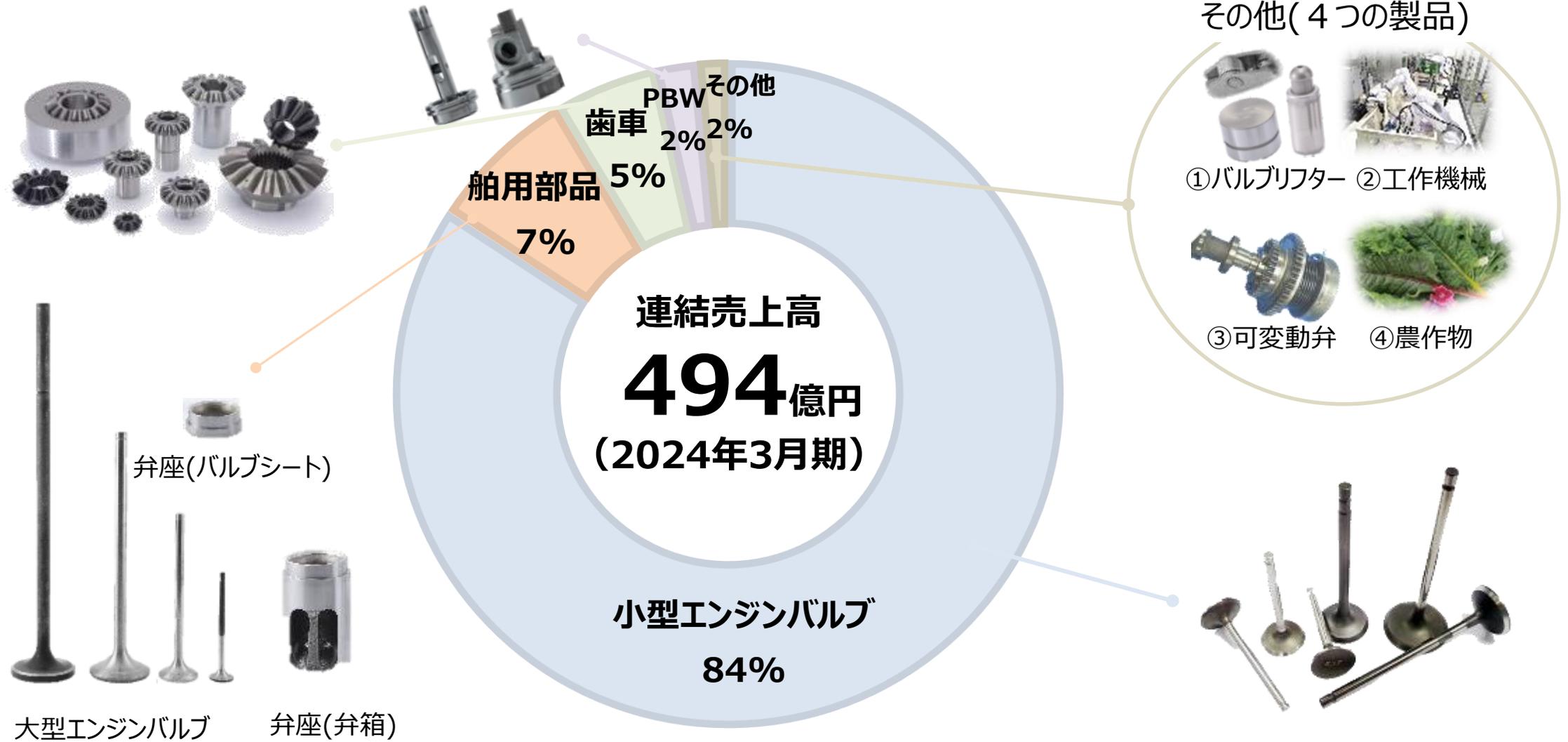
その他事業売上高（連結）

(単位：億円)



■ PBW事業を撤退し、2024年9月末時点では上記4つの事業領域で構成されている

7. 売上高及び事業セグメント別比率



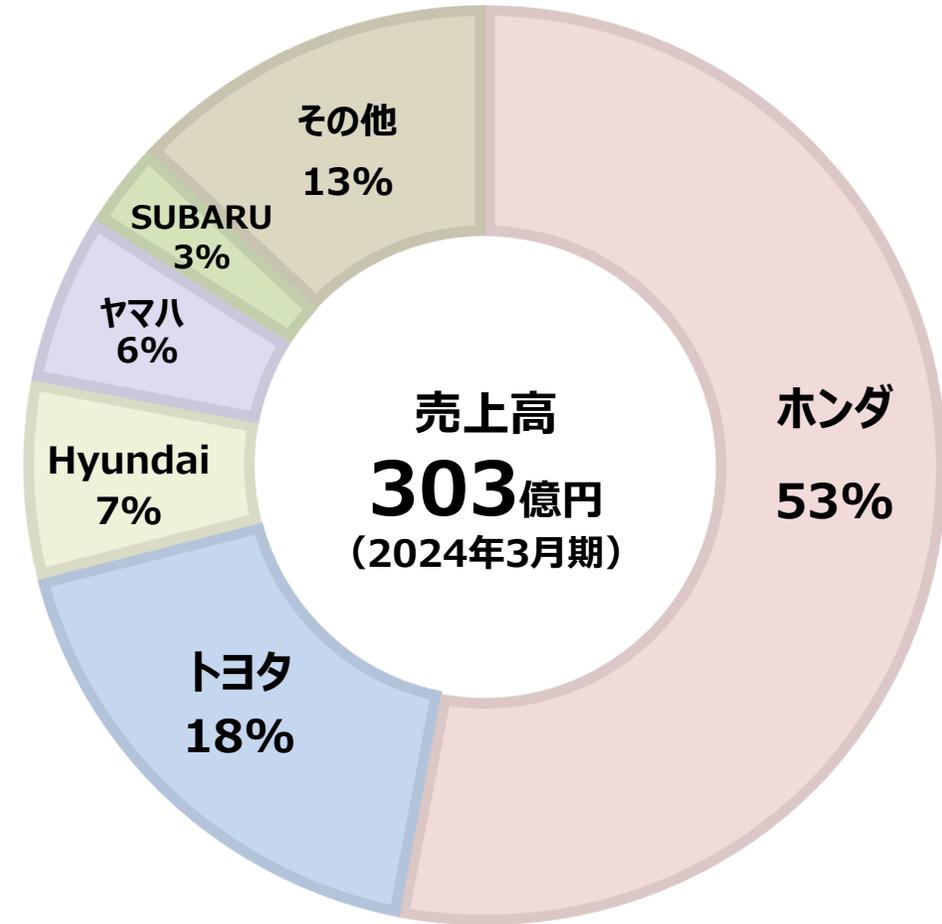
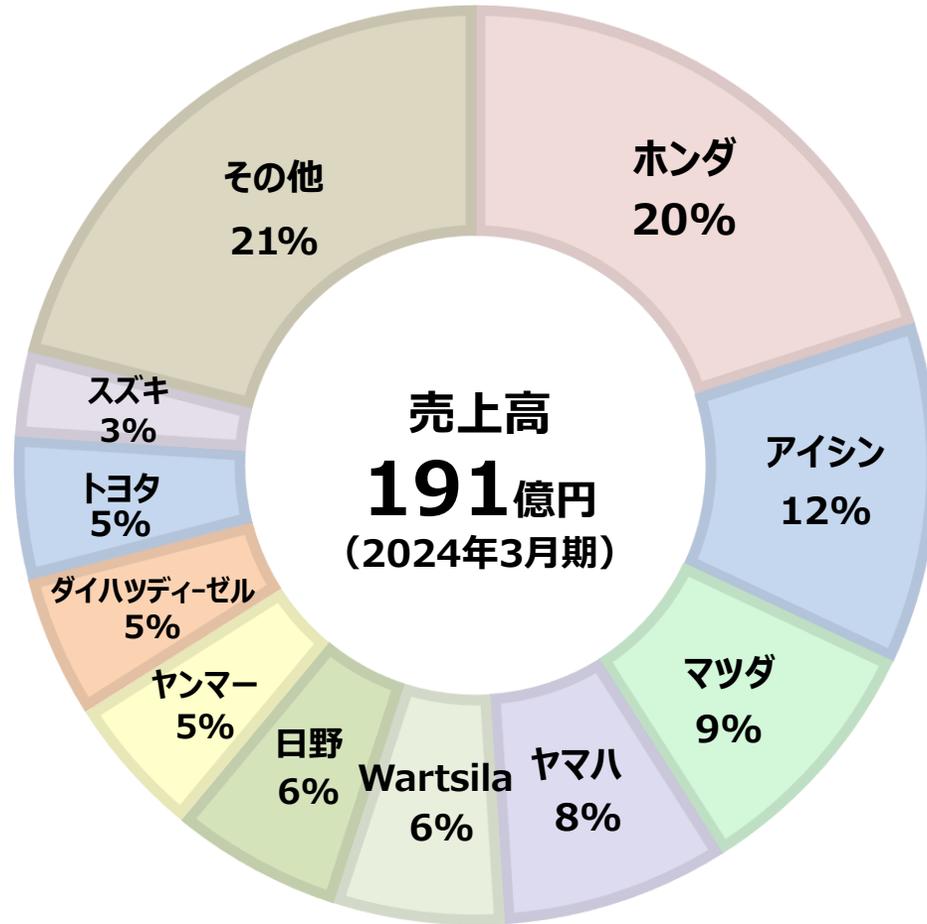
■ 新規開発アイテムの拡販およびM & Aにより、事業の多角化を目指している

8. 国内・海外 主要お取引先様比率（連結売上高）

【国内】

【海外】

【敬称略】

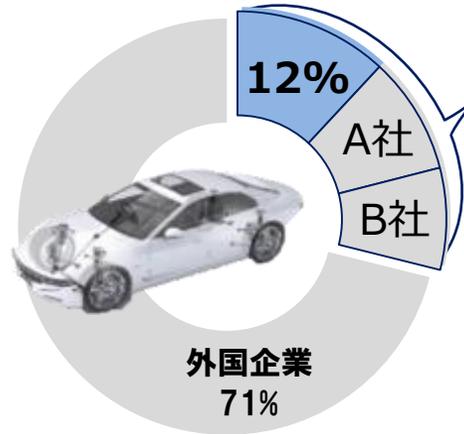


■ 系列に属さない強み

■ 地産地消のニーズに応えている

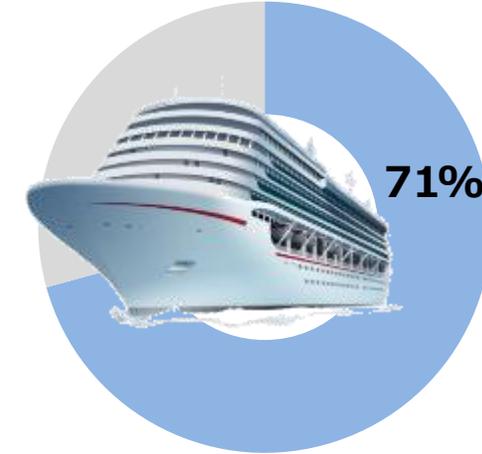
9. エンジンバルブ当社推定シェア(グローバル)

4輪向け

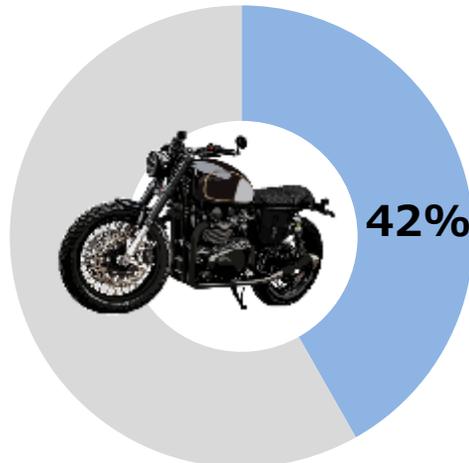


日本企業(当社含め3社)
が占めるシェア29%のうち、
当社がトップシェア！！

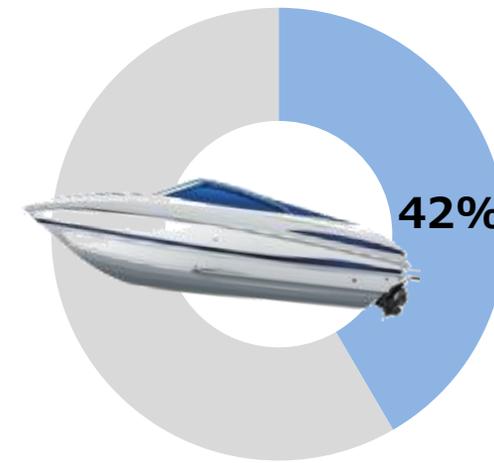
船用中速エンジン向け



2輪向け



船外機向け



■ 各領域のトップシェアのお客様と取引がある

- 1. 第2四半期（中間期）業績**
- 2. 通期業績見通し**

1-1. 2025年3月期第2四半期（中間期）業績総括



(単位：百万円)

	23年3月期 上期実績	24年3月期 上期実績	25年3月期 上期予想 5/13発表	25年3月期 上期実績	前年同期比 (左：金額、右：率)		予想比 (左：金額、右：率)	
売上高	20,355	24,841	25,100	25,552	711	+2.9%	452	+1.8%
営業利益	354	1,068	760	211	△857	△80.2%	△549	△72.2%
営業利益率	1.7%	4.3%	3.0%	0.8%				
経常利益	557	1,304	900	492	△812	△62.2	△408	△45.3%
中間純利益（*）	△45	423	255	△8	△431	—	△263	—

海外関係会社 連結決算適用レート		23年3月期 上期実績	24年3月期 上期実績	25年3月期 上期予想	25年3月期 上期実績
USドル	円/USD	136.69	144.99	141.82	161.14
人民元	円/RMB	20.39	19.95	19.94	22.05

25年3月期上期実績に 含まれる為替影響 (24年3月期上期実績レート比)	
売上高	1,552
営業利益	65

(*) 「中間純利益」は「親会社株主に帰属する中間純利益」を指す

- 為替の円安影響により売上高は増収であるが、為替の影響を除くと減収
- 北米及び欧州の売上高は増加
- 日本では一部自動車メーカーの生産・出荷停止影響を受ける
- 船用部品事業の業績悪化やアジア地域の市場低迷などにより減益

1-2. 事業セグメント別業績



(単位：百万円)

	23年3月期 上期実績			24年3月期 上期実績			25年3月期 上期予想			25年3月期 上期実績		
	売上高	利益	利益率 (%)	売上高	利益	利益率 (%)	売上高	利益	利益率 (%)	売上高 (前期比)	利益 (前期比)	利益率 (%)
小型エンジン バルブ	16,322	376	2.3	20,562	763	3.7	21,386	679	3.2	22,380 (+9%)	699 (△8%)	3.1
船用部品	1,823	5	0.3	1,997	31	1.6	1,964	87	4.4	1,566 (△20%)	△383 (-)	△24.4
歯車	1,313	△149	△11.3	1,257	△41	△3.3	1,210	△41	△3.4	1,167 (△7%)	△74 (-)	△6.3
その他	897	27	3.0	1,025	213	20.8	540	△19	△3.6	439 (△21%)	△136 (-)	△31.0

※上記の利益は事業別のセグメント利益

- 小型エンジンバルブ : 北米の受注増加や為替円安影響により増収であるが、タイ・中国での減収や北米のコスト増加で減益
- 船用部品 : 火災からの復旧を進め生産活動を再開しているが安定した供給には至らず減収
一部工程の外注委託化による原価高騰などにより減益
- 歯車 : 生産性改善により赤字幅を抑える取り組みは実施しているが予想以上の受注減により減益
- その他 : PBW事業の廃止による減収やNC10開発アイテムの本格的な量産開始にはならず減収・減益

1-3. 所在地別業績



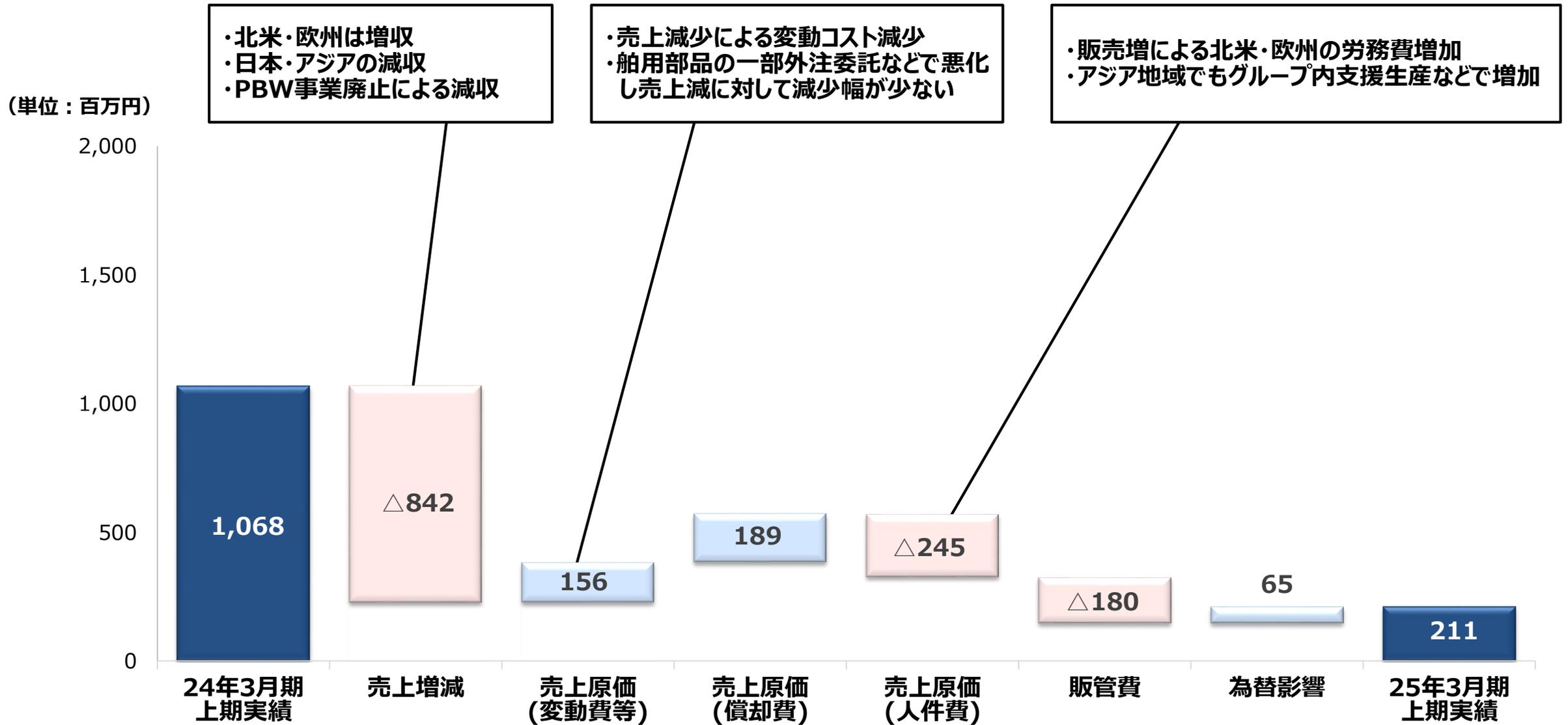
(単位：百万円)

	23年3月期 上期実績			24年3月期 上期実績			25年3月期 上期予想			25年3月期 上期実績		
	売上高	利益	利益率 (%)	売上高	利益	利益率 (%)	売上高	利益	利益率 (%)	売上高 (前期比)	利益 (前期比)	利益率 (%)
日本	8,561	△522	△6.1	9,830	△205	△2.1	9,295	△62	△0.7	8,626 (△12%)	△782 (-)	△9.1
アジア	7,907	1,231	△15.6	8,301	1,446	17.4	7,941	1,166	14.7	8,172 (△2%)	1,395 (△4%)	17.1
北米	2,970	△432	△14.5	5,342	△274	△5.1	6,357	△445	△7.0	7,147 (+34%)	△460 (-)	△6.4
欧州	917	△16	△1.8	1,368	95	6.9	1,507	56	3.7	1,607 (+17%)	68 (△28%)	4.3

※上記の利益は所在地別のセグメント利益

- 日本 : 小型エンジンバルブや船用部品事業の減収・減益
- アジア : 各拠点において自動車市場が減速しているものの為替影響により前年同期と同水準
- 北米 : 現地顧客の販売増や為替影響により大幅な増収、輸入費用や固定費増加に加え為替影響より損失増
- 欧州 : 現地顧客の販売は好調を維持するが、労務費増加や中国拠点での生産委託コスト増加により減益

1-4. 連結営業利益増減要因



1-5. 連結貸借対照表



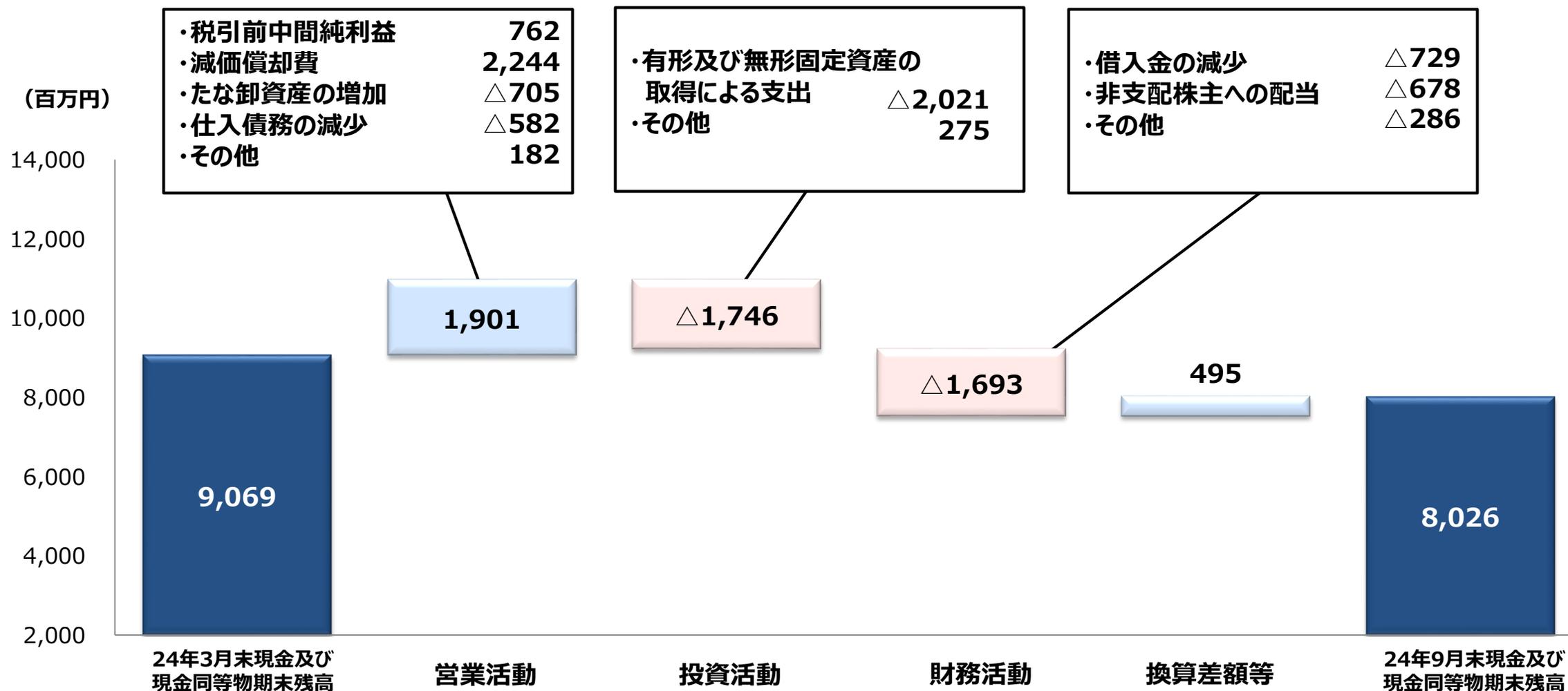
(単位：百万円)

科目	24年3月期 期末	25年3月期 上期	増減	科目	24年3月期 期末	25年3月期 上期	増減
資 産 の 部				負 債 の 部			
流動資産	28,119	28,708	589	流動負債	13,857	14,153	296
現金及び預金	9,069	8,026	△1,043	固定負債	12,079	11,285	△794
受取手形及び売掛金	8,319	8,778	459	負債合計	25,936	25,438	△498
たな卸資産	9,570	10,662	1,092	純 資 産 の 部			
その他流動資産	1,161	1,242	81	株主資本	22,975	22,777	△198
固定資産	34,862	34,071	△791	その他の包括利益累計額	5,494	5,548	54
有形固定資産	23,872	24,012	140	非支配株主持分	8,576	9,016	440
無形固定資産	708	796	88	純資産合計	37,045	37,341	296
投資その他の資産	10,282	9,263	△1,019	負債及び純資産合計	62,981	62,779	△202
資産合計	62,981	62,779	△202				

- 資産の部 : 為替の円安影響はあるが借入金返済による現預金減少や保有株式の株価下落
- 負債の部 : フリーCFを原資に返済を進め借入金が増加
- 純資産の部 : 為替の円安影響により為替換算調整勘定や非支配株主持分が増加したが、保有株式の時価下落によりその他有価証券評価差額金は減少

自己資本比率
 24年3月期期末 : 45.2%
 25年3月期上期 : 45.1%

1-6. 連結キャッシュ・フロー



- 業績悪化に伴い営業活動による収入は前年同期比で減収
- 投資活動及び財務活動は前年同期と同水準の支出
- 換算差額等は為替の円安影響

2-1. 2025年3月期通期業績見通し総括



(単位：百万円)

	23年3月期	24年3月期	25年3月期予想 (10月30日修正発表)	増減額 (前期比)	
売上高	41,876	49,478	50,000	522	+1.1%
営業利益	1,440	2,023	1,750	△273	△13.5%
営業利益率	3.4%	4.1%	3.5%		
経常利益	1,759	2,482	1,850	△632	△25.5%
当期純利益 (*1)	391	601	700	99	+16.5%
業績見通し適用レート	23年3月期	24年3月期	25年3月期 予想		
(参考) USドル 円/USD	132.70	141.82	142.82		
人民元 円/RMB	19.02	19.94	20.47		

(*1) 「当期純利益」は、「親会社に帰属する当期純利益」を指す

- 北米の自動車生産は引き続き回復傾向で為替円安影響による増収効果はあるものの、中国やタイの市場低迷により前年と同水準の見通し
- 利益面では船用部品事業における原価の悪化やPBW事業廃止などを要因とした減益
- 想定為替レートは、24年9月レートとしており、円安が続けば業績にはプラス影響が見込まれる
(24年3月期レートと比較した場合の為替影響は、売上高+660百万円、営業利益+88百万円)

2-2. 事業セグメント別業績見通し

(単位：百万円)

	23年3月期			24年3月期			25年3月期 予想(10月30日修正発表)		
	売上高	利益	利益率 (%)	売上高	利益	利益率 (%)	売上高 (前期比)	利益 (前期比)	利益率 (%)
小型エンジンバルブ	33,972	1,295	3.8	41,677	1,813	4.4	42,840 (+3%)	2,232 (+23%)	5.2
舶用部品	3,762	91	2.4	3,565	△170	△4.8	3,870 (+9%)	△310 (-)	△8.0
歯車	2,446	△309	△12.6	2,494	△109	△4.4	2,490 (△0%)	△80 (-)	△3.2
その他	1,659	163	9.8	1,742	294	16.9	800 (△54%)	△200 (-)	△25.0

※上記の利益は事業別のセグメント利益

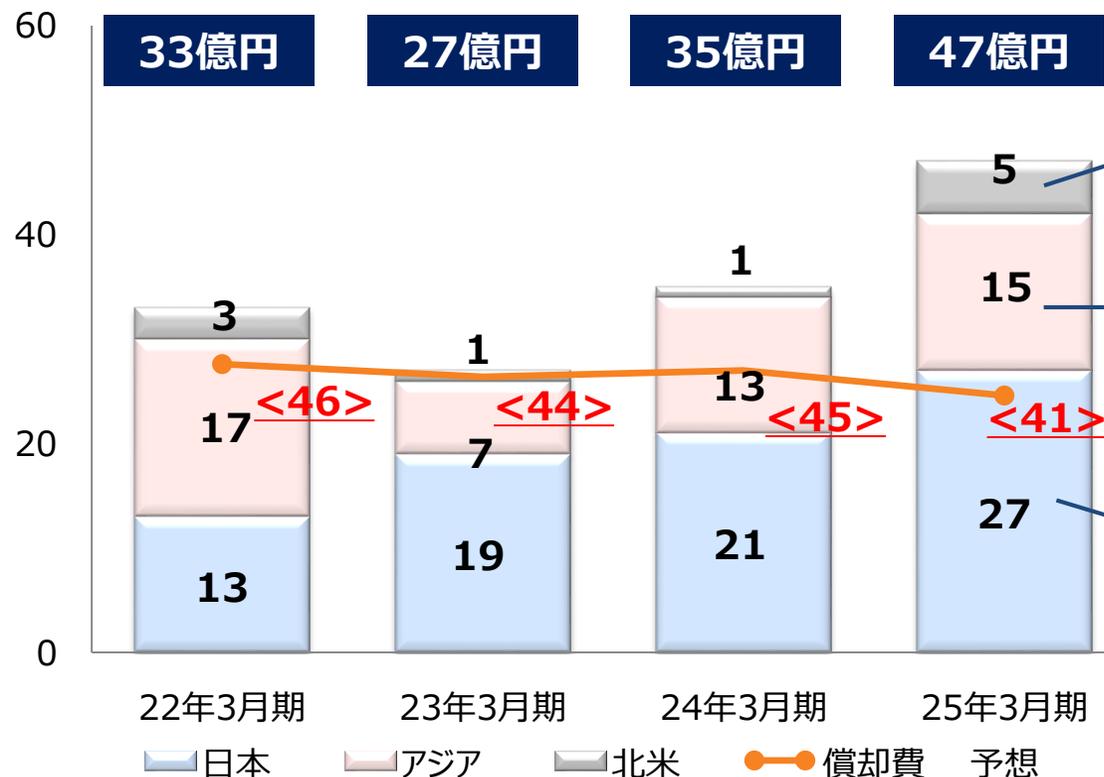
- 小型エンジンバルブ : 中国やタイの市場低迷による減収はあるものの、北米の受注増加や生産性改善を進め利益改善を進める為替の円安影響もあり、当事業は増収・増益を見込む
- 舶用部品 : 販売は増加傾向であり、外注委託先の協力を得ながら原価改善も進め赤字幅を抑える取り組みを実施
- 歯車 : 販売は前期と同水準であり、生産性改善により赤字幅を抑える取り組みを継続
- その他 : PBW事業の廃止による減収であり、NC10開発アイテム量産化に向けた活動を進める

2-3. 設備投資・減価償却費

設備投資
(億円)

<設備投資額・減価償却費>

償却費
(億円)



- 【北米】
 - ・ 増産への対応投資
- 【アジア】
 - ・ 中国（日照） 軸中空バルブ設備
 - ・ インドネシア 外観検査機など省力化投資や更新投資
 - ・ ベトナム 設備部品ビジネスへの投資
- 【日本】
 - ・ 堀山下工場の火災からの復旧関連投資と前期からの繰越投資
 - ・ 小型バルブや歯車事業では、更新投資が中心

償却費対売上高比率	11.8%	10.4%	9.2%	8.1%

(下線_数値：減価償却費)

- 日本の堀山下工場火災からの復旧関連投資や前期からの繰越投資を織り込み、前期を上回る見通し
- NC10関連投資や、基幹システム更新関連投資（翌期にかけて）も織り込む

2-4. 配当の状況

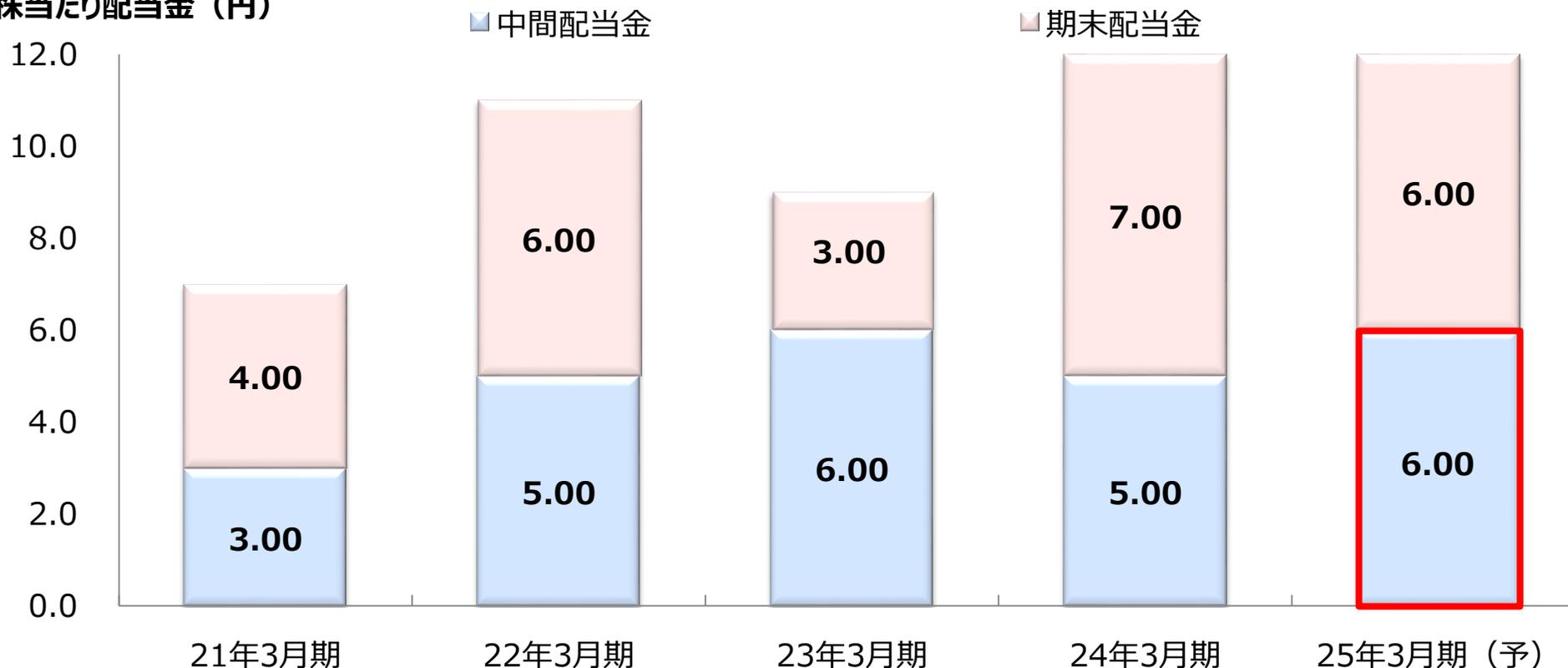
<中間配当>

基準日 : 2024年9月30日

配当金 : 1株あたり金6円 ※期末配当6円を合わせ年間12円を予定しております。

支払日 : 2024年12月6日

1株当たり配当金 (円)



連結EPS	23.33	22.39	13.60	20.92	24.36 (予)
-------	-------	-------	-------	-------	-----------

- 1. 中期経営計画**
- 2. NC10達成に向けた取り組み**
- 3. カーボンニュートラル達成に向けた取り組み**
- 4. CSR、SDGs活動状況について**

1-1. 中期経営計画



(単位：百万円)

	'21年度	'22年度	'23年度	'24年度 (修正)	'25年度 (目標)	'26年度 (目標)
売上高 (うち、NC10)	38,669	41,876	49,478 (2,170)	50,000 (3,551)	56,600 (8,420)	54,800 (10,370)
営業利益	1,963	1,440	2,023	1,750	3,600	3,270
ROS	5.1%	3.4%	4.1%	3.5%	6.4%	6.0%
当期純利益	644	391	601	700	1,720	1,740
ROE	2.8%	1.6%	2.3%	2.5%	6.1%	6.2%

- 国内・北米の黒字化でROE 8%以上を目指す
- 既存事業の安定的なキャッシュをNC10へ投資する
 '25年度以降の目標値には恵那金属製作所の増収増益を反映しています
- 収益性の向上、投資効率を高めPBRの改善を目指す

新しい「NITTAN」の中・長期経営VISION

売上高
1,000億円以上

営業利益額
100億円以上

ROS
10%以上

NITTAN Challenge10



■ 恵那金属製作所を、NC10達成における“VISION II”の成長事業の一つに位置づけた

2-2. 主要自動車市場の規制動向

排ガス・燃費規制 → 販売規制 → 規制案、目標

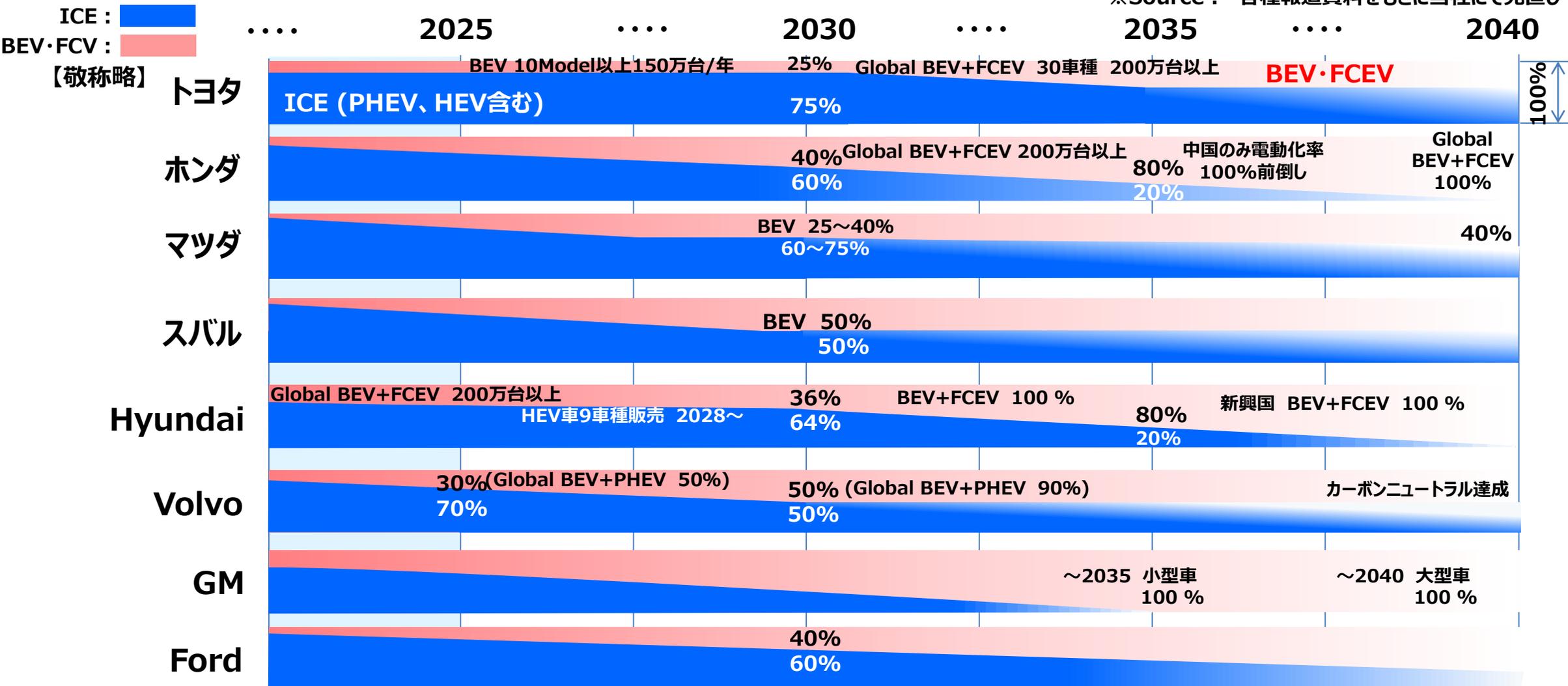


※Source : AM_Word、JAE自動車技術他、報道資料をもとに当社にて見直し

- 2027年の米国Tier4は当初より規制緩和したが、2029年に向けて各社ICE開発を進めている
- 加州、欧州、中国での2035年以降の販売規制でもPHEVは残るため、ICEが残る方向

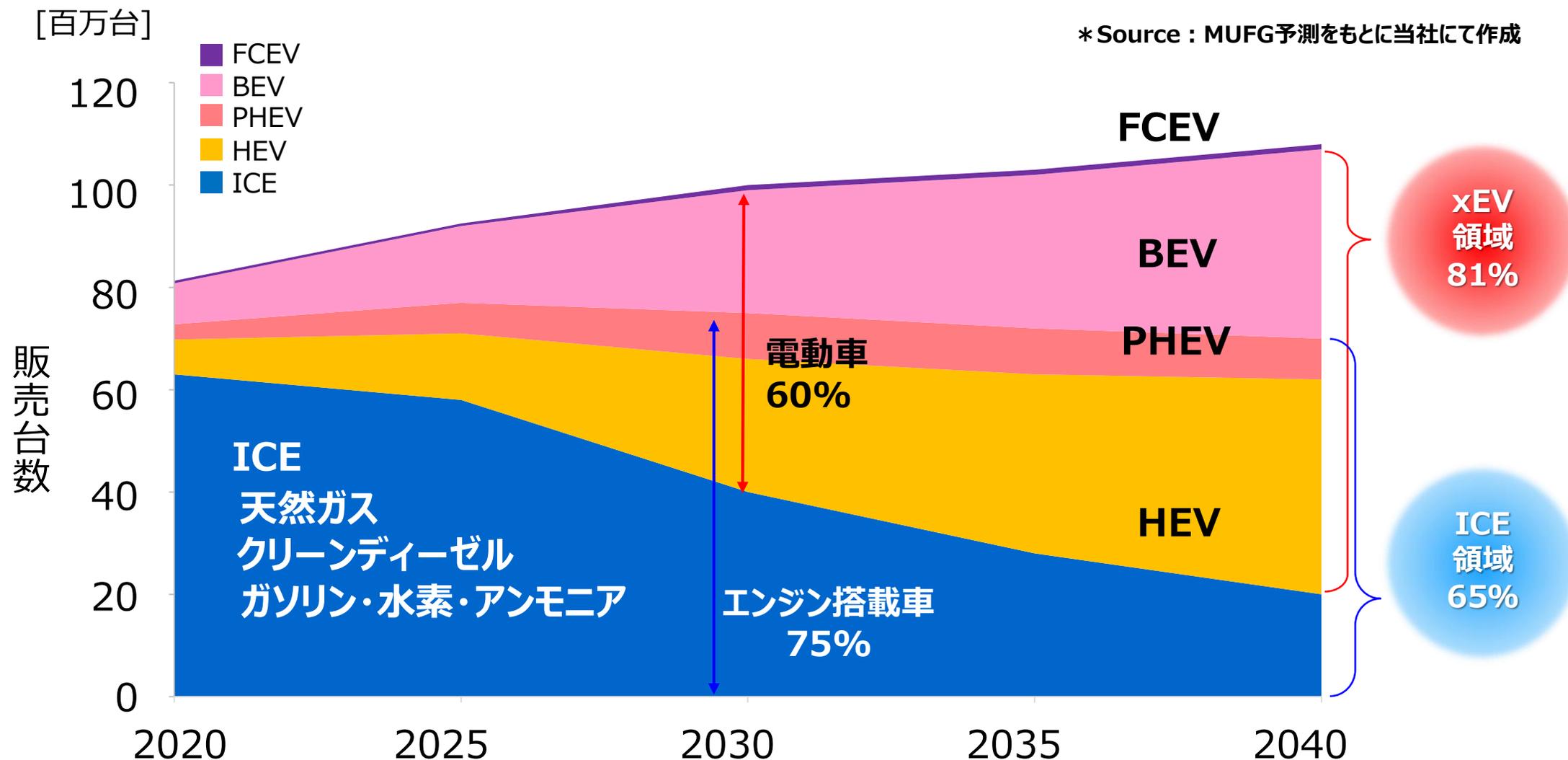
2-4. 自動車メーカー 電動化の動向

※Source : 各種報道資料をもとに当社にて見直し



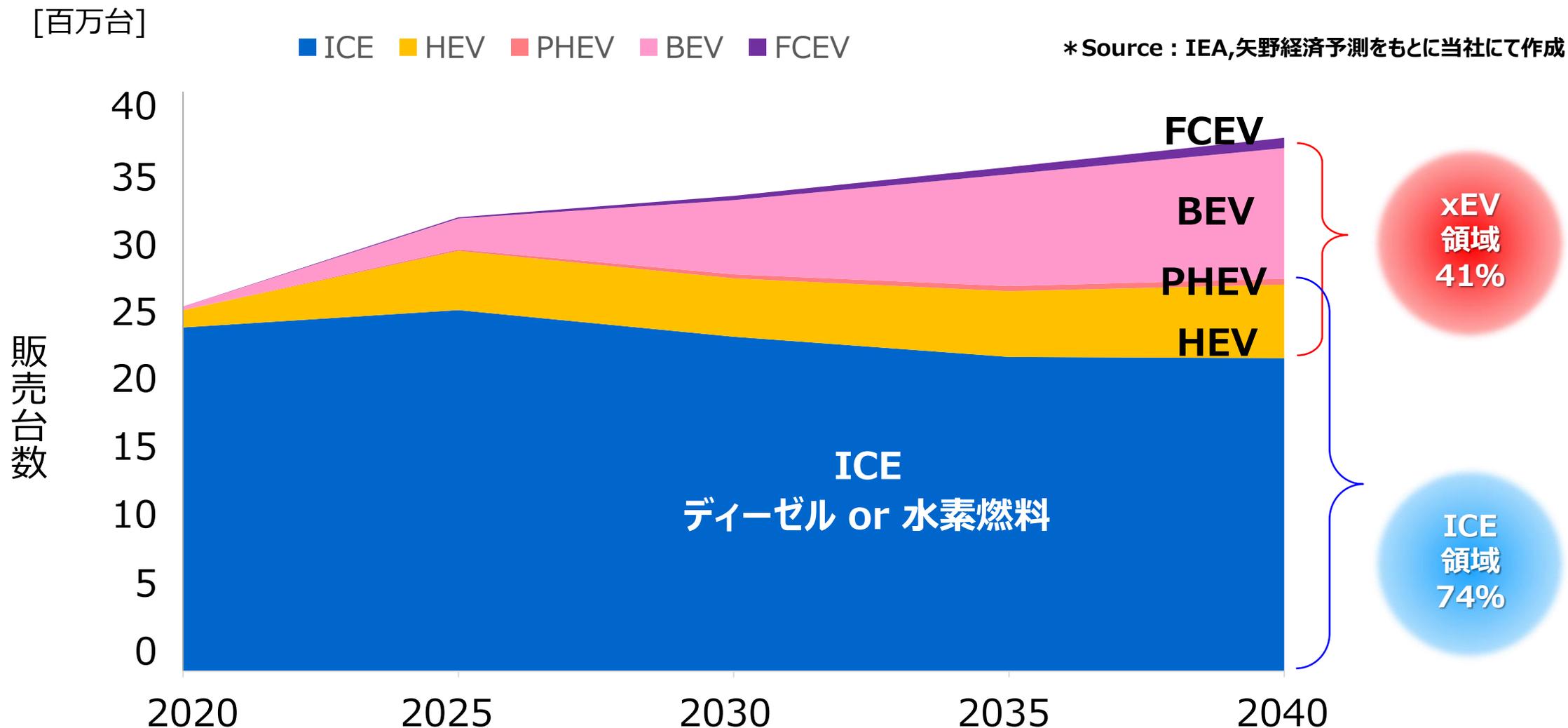
■ 市場需要やインフラ未整備により各社電動化販売計画を見直し、電動化の鈍化がみられる

2-5. 乗用車 パワートレイン予測 -2020~2040-



■ 将来的にBEVが主流になるが、ICEは2020年比で2040年に96%の残存数と予想

2-6. 商用車 パワートレイン別販売予測 -2020~2040-



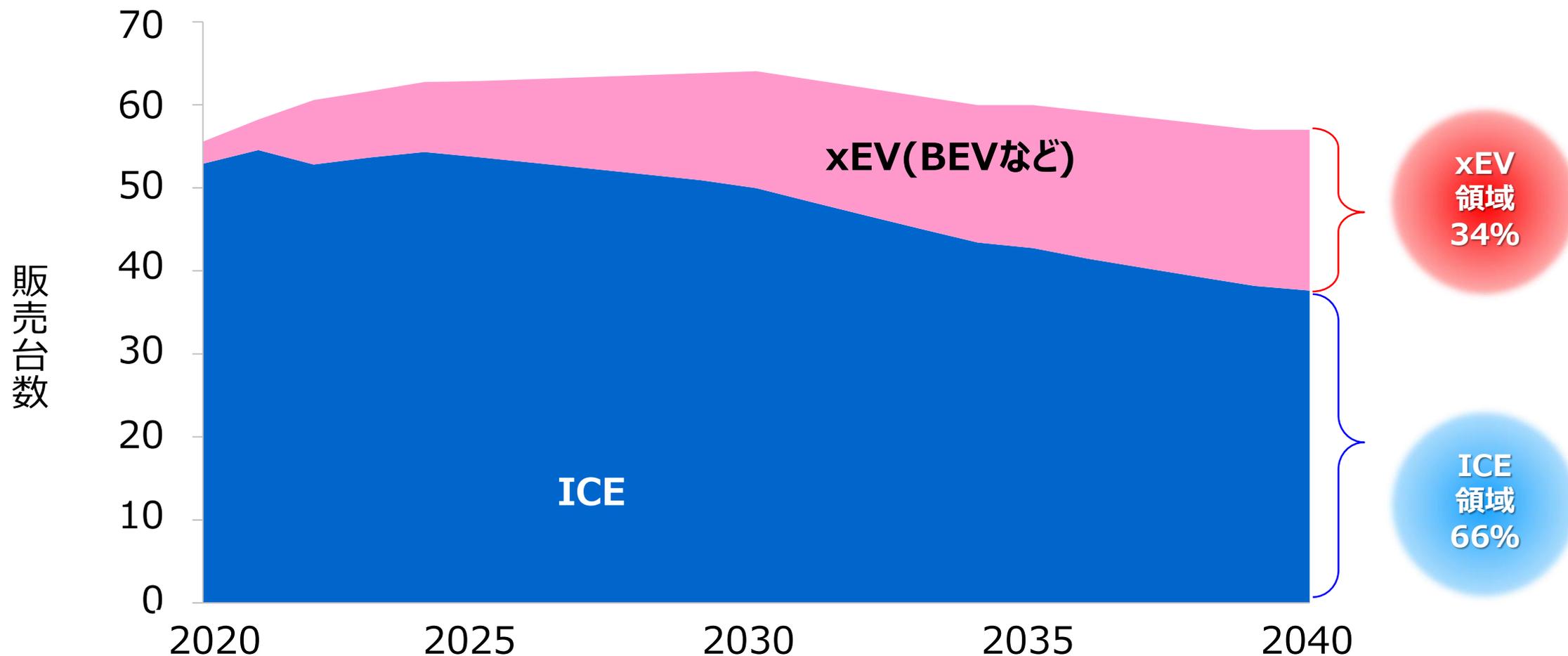
■ 大型商用車はICEが主流であり、小型商用車は電動化へ切替わっていく見込み

2-7. 自動2輪 パワートレイン予測 -2020~2040-

[百万台]

xEV ICE

* Source : 矢野経済予測をもとに当社にて作成



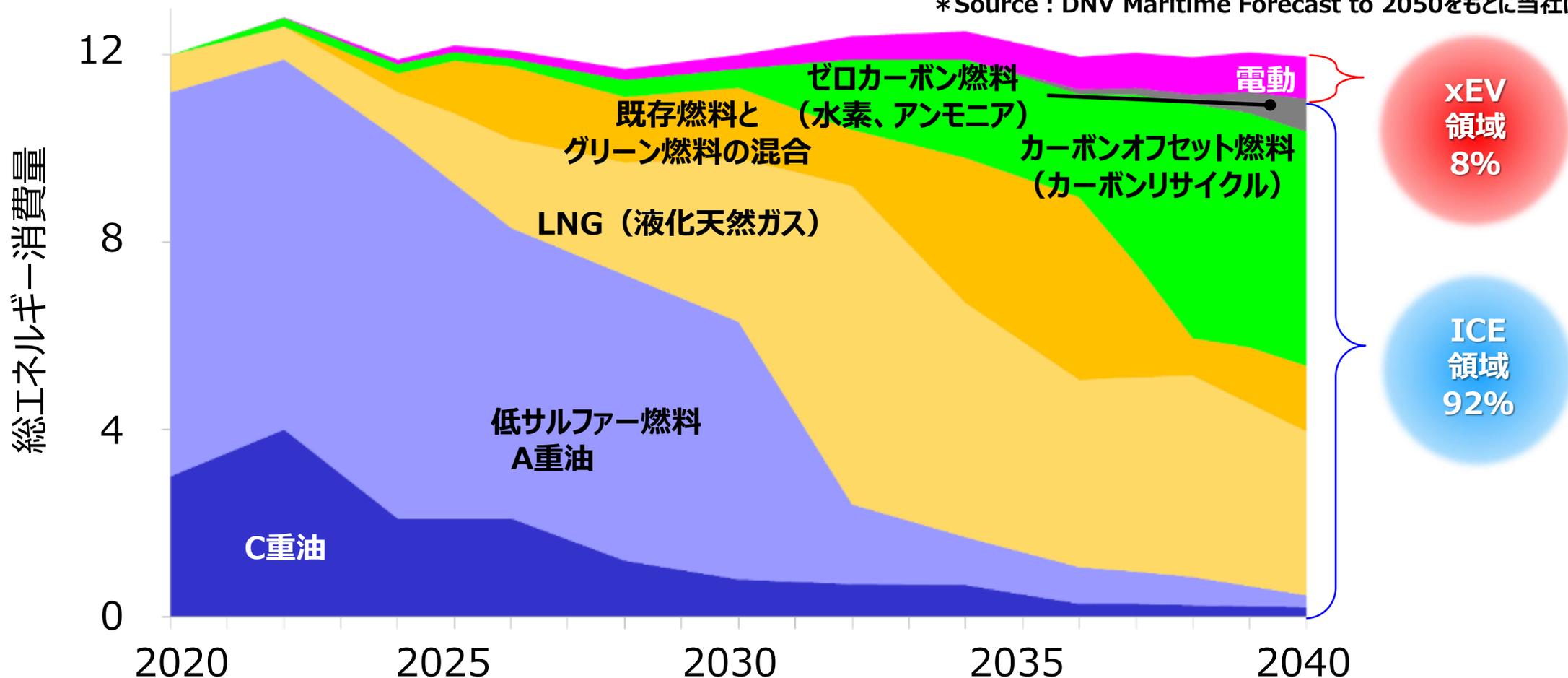
■スクーター系はEV移行が加速すると考えられるが、スポーツ系などでICEも一定数残ると予想される

2-8. 船舶 パワートレイン燃料予測 -2020~2040-

※EJ(エクサジュール) = 10¹⁸J

[EJ/年] ■ C重油 ■ A重油 ■ LNG ■ 混合燃料 ■ CO燃料 ■ ゼロカーボン燃料 ■ 電動

* Source : DNV Maritime Forecast to 2050をもとに当社にて作成

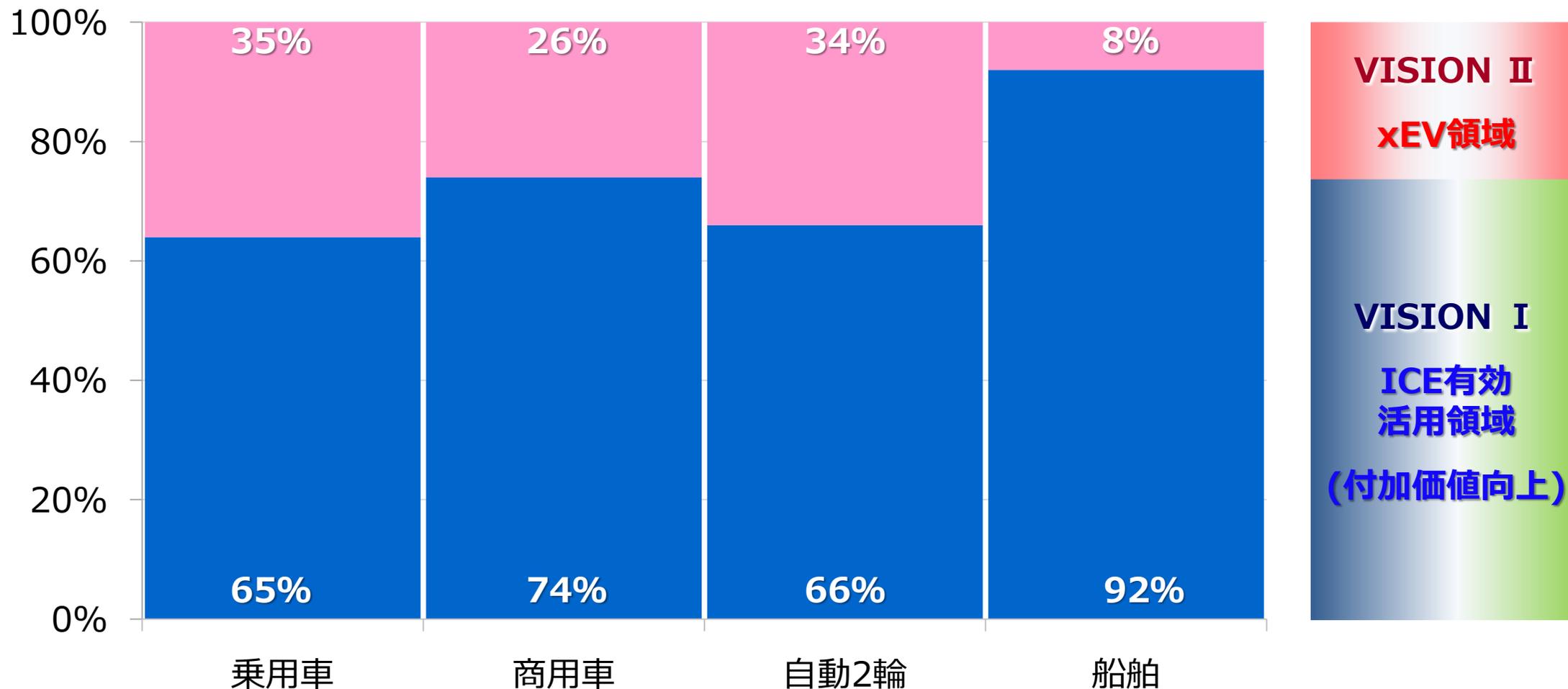


■ 船用業界は電動化の動きよりは、GHG(温室効果ガス)削減対応技術がメインになる見込み

2-9. パワートレイン動向予測 まとめ

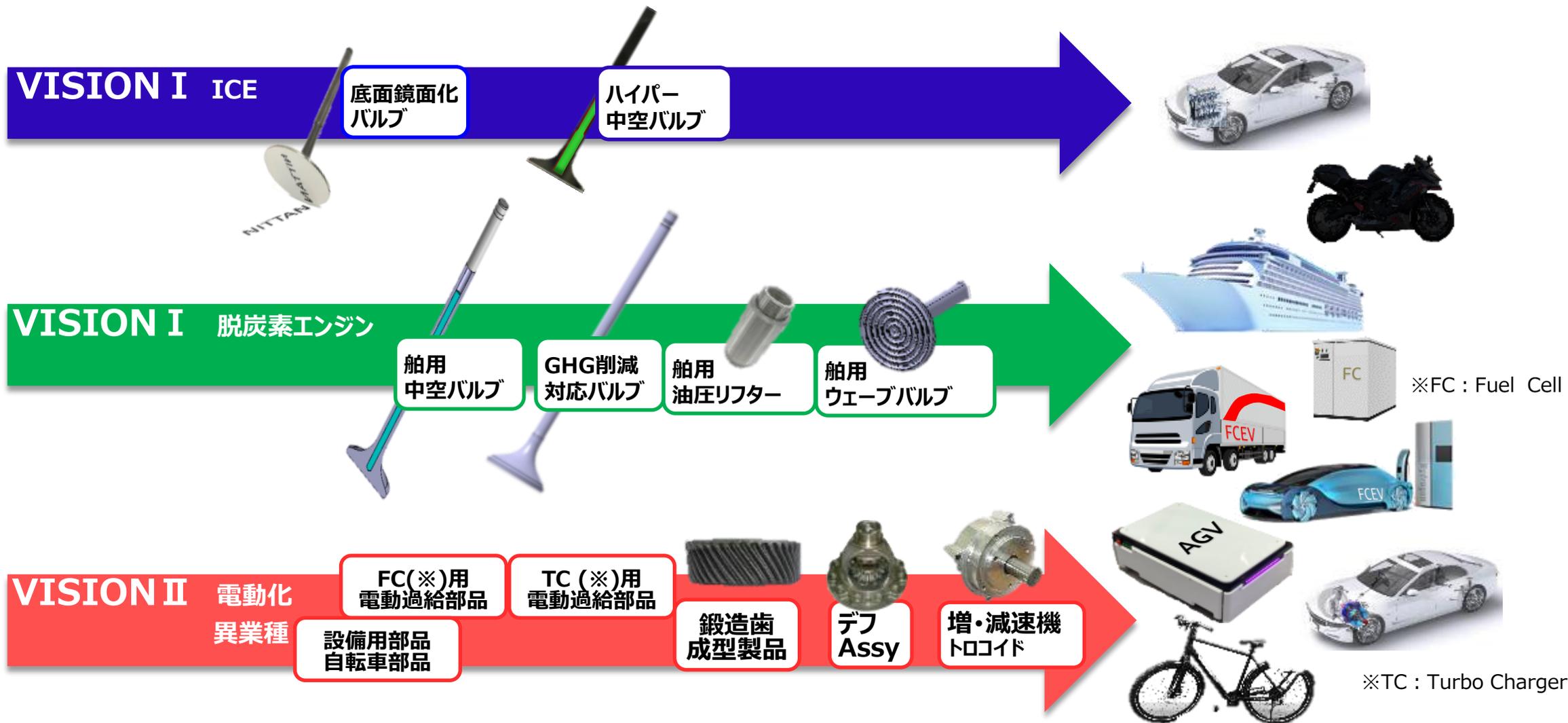
2040年予測

■ ICE領域(HEV,PHEV含む) ■ BEV領域(FCEV含む)



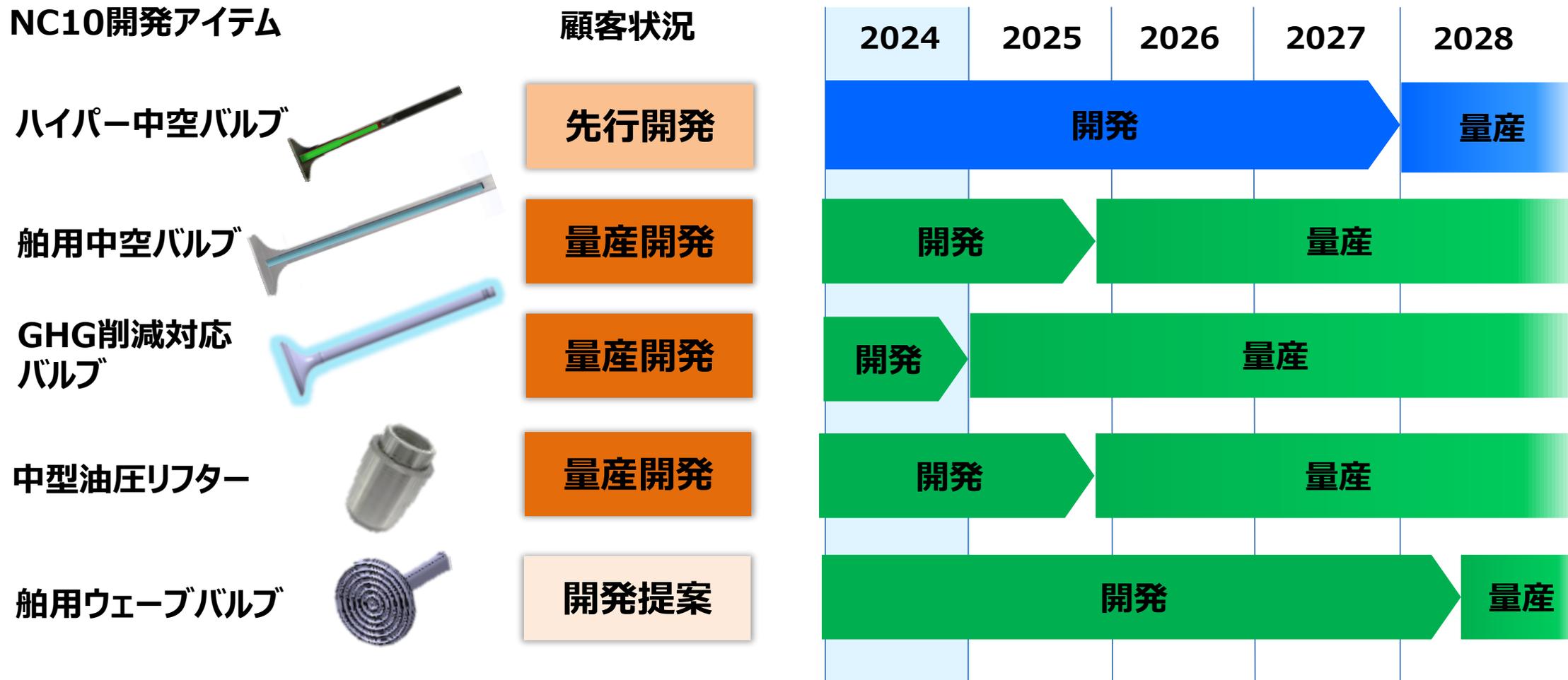
- 乗用車、自動2輪で電動化が進むが、ICE領域は依然としてメインの市場として残る予測
- 2040年ICE販売数量は、BEV増加も全体増加で2020年比で数量維持する予測

2-10. NC10開発のターゲットアイテム



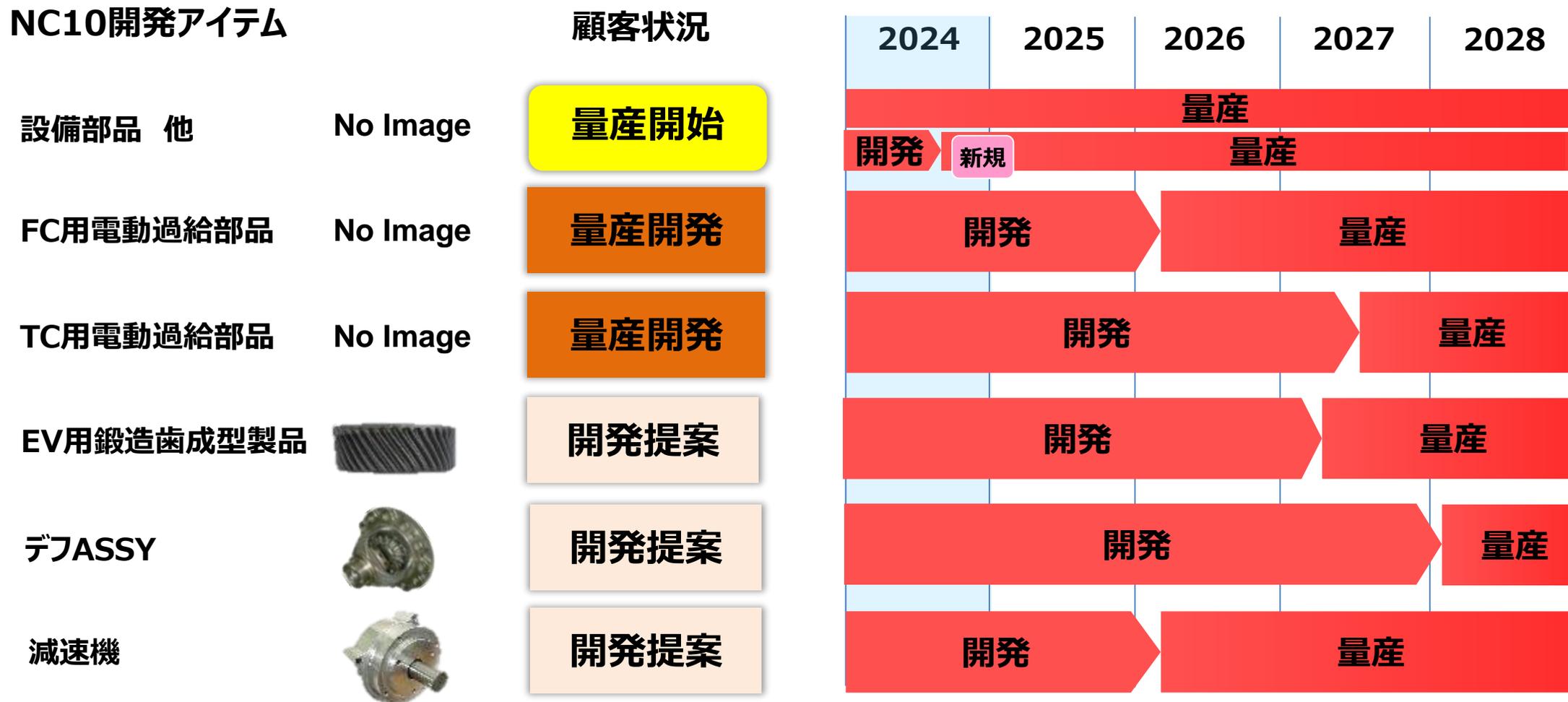
■ 各国規制や各業界の市場動向の変化に適応したターゲットアイテムの開発を推進している

2-11. VISION I (ICE有効活用領域)の開発状況



- ハイパー中空バルブはお客様から温度低減効果を認められ、2029年のTier4対応で引合いあり
- 船用中空バルブ、GHG削減対応バルブも2025年以降の量産化を目指す

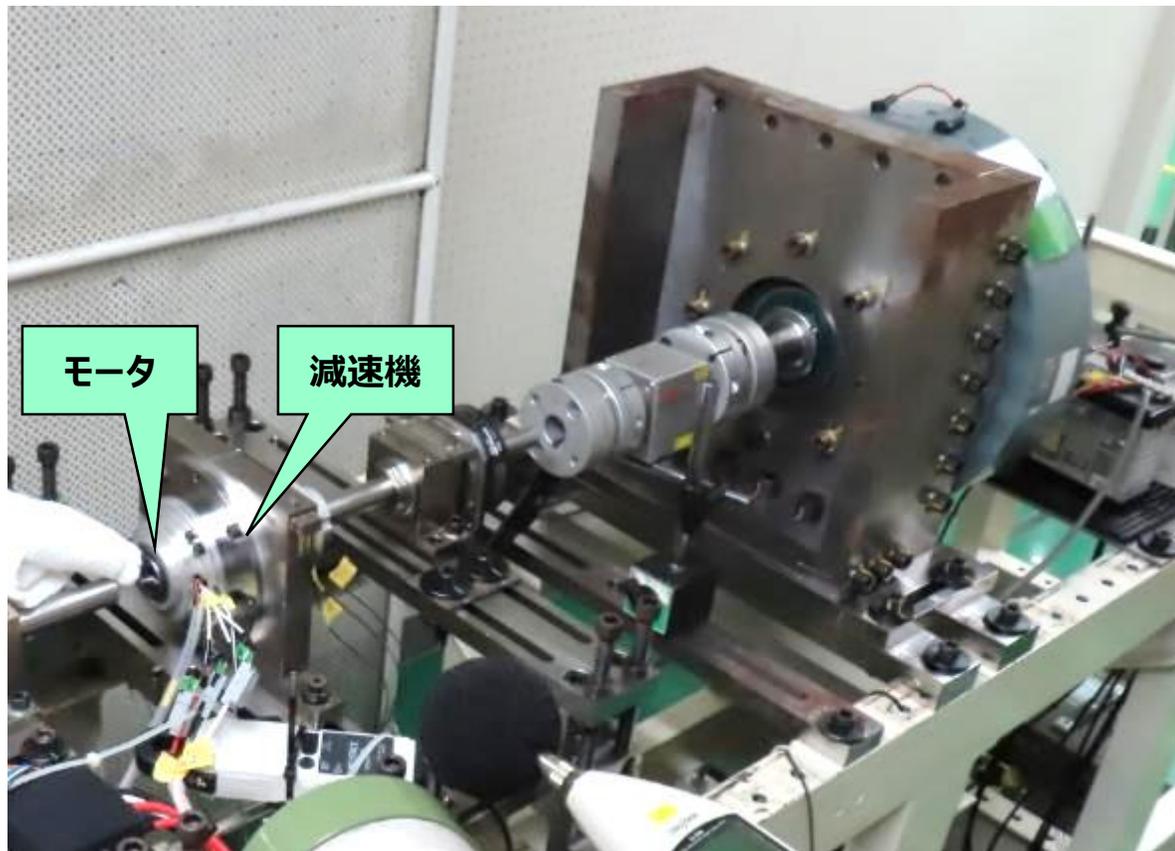
2-12. VISION II (xEV・異業種領域)の開発状況



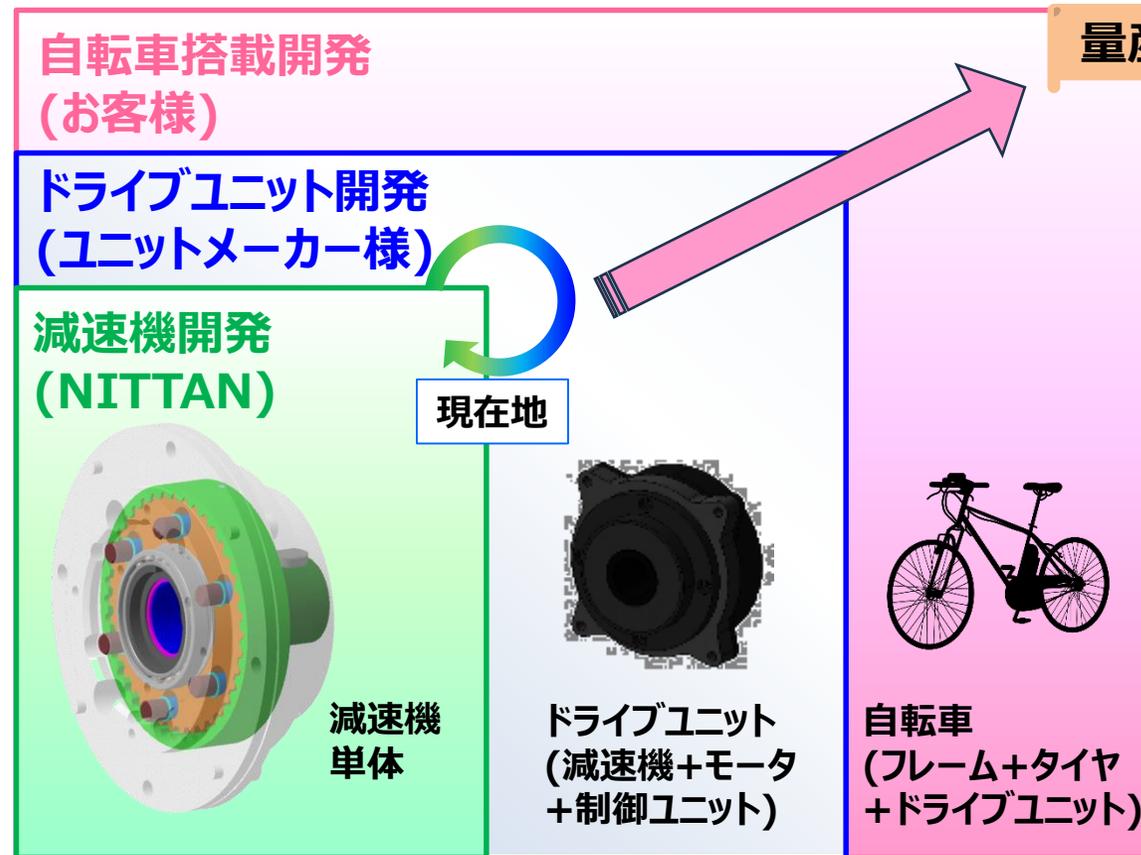
- 設備部品等は既に量産を開始しており、24年度に新規受注が決定、増産傾向にある
- FC用電動過給部品は新規お客様から引合いあり、TC用はお客様都合で量産時期延期

2-13. 電動自転車向け減速機(Nixtroid)について

電動アシスト自転車向け 減速機開発



社内評価(プロトタイプのドライブユニット評価)



- 電動アシスト自転車向け小型減速機は、モーターとの組合せによる次の開発ステップへと進んだ
- ドライブユニットメーカー様の評価を開始し、新たな要求や課題の解決に向けて開発を加速させる

2-14. AGV向け減速機(Nixtroid)について

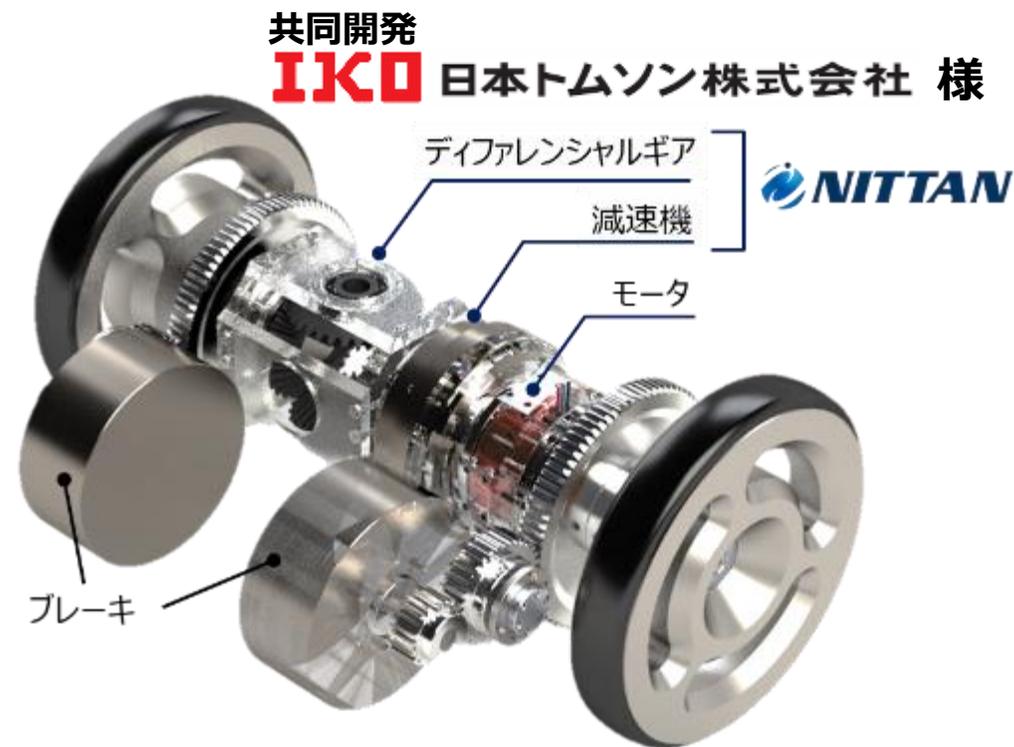
第29回機械要素技術展(東京)の日本トムソン様ブースにて、共同開発しているAGVと弊社開発Nixtroid減速機を展示



AGV展示の様子



減速機展示の様子



AGV駆動ユニット概要

- NITTAN固有技術と日本トムソン様固有技術を活用したユニークなAGVを共同開発し、出展した
- Nixtroid減速機を応用し、新たな製品を生み出す協業からイノベーションを起こし次の製品につなぐ

2-15. 電動過給部品について



NITTAN
技術

- ・鍛造・接合・溶接
- ・材料提案・組み立て

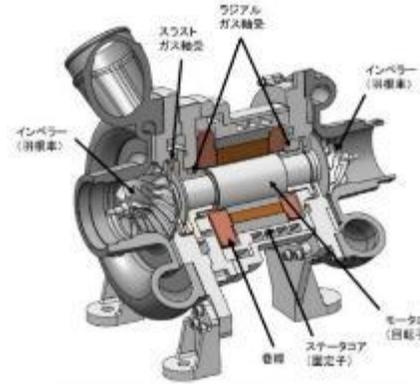
シナジー
効果



恵那金属
製作所
技術

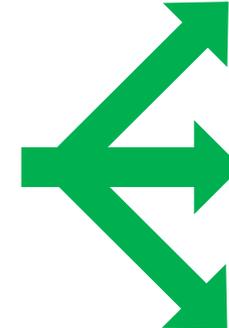
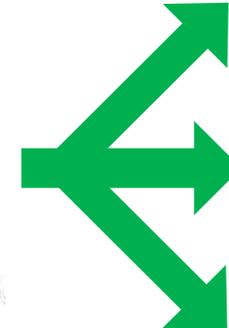
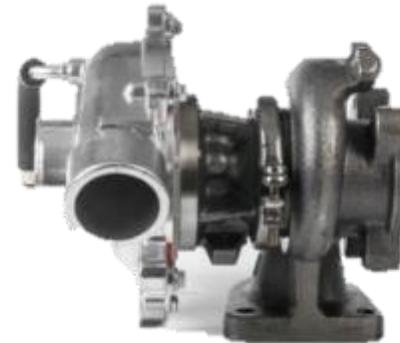
- ・切削加工
(難削材、鋳物)
- ・表面処理(めっき等)

FC用エアークOMPレツサ



引用: デイリーEVヘッドライン [2023.06.28] (ev-times.com)

TC (ターボチャージャー)



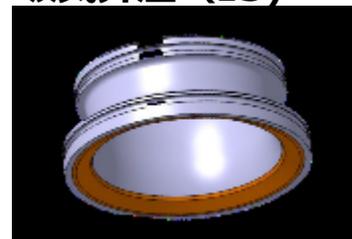
- 過給部品はICEの排ガス規制対応に不可欠であり、今後もニーズが期待される製品である
- NITTAN保有技術と恵那金属保有技術のシナジー効果でお客様のニーズに貢献していく

■ 恵那金属製作所の所有技術 & 設備を活用した取組み

1. 高精度加工技術 & 設備の活用 (弁座の加工)



吸気弁座 (IS)



排気弁座 (ES)

弁座の機能：

- ①シールする
- ②エンジンバルブを冷やす

■ 所有設備を活用し、船用部品事業の一製品である弁座の加工を**内製化**する。

2. 高精度加工技術 & 設備の活用 (VISION II の設備部品)



■ 用途に合う機械 (複合加工機・5軸マシニングセンター等)を活用し、**最適な設備選定と更なる高精度加工**に取り組む。

■ 社内で製品に適した設備加工用治具の設計・試作を行い、立上げまでのリードタイムの短縮化で**原価削減**に繋げる。

3. メッキ処理装置の活用 (船用の大型エンジンバルブ)



■ 前洗浄からメッキ処理工程までの一貫生産が可能だが、処理槽のサイズが小さくエンジンバルブを処理出来ない為、設備投資し、エンジンバルブへの**粗メッキ処理を内製化**する。

■ 恵那金属製作所の所有技術と設備を活用し早く・リーズナブルに・良い製品をお客様へ提供する

2-17. NC10目標の現在値 (24年9月基準)



売上高(億円)

1,000

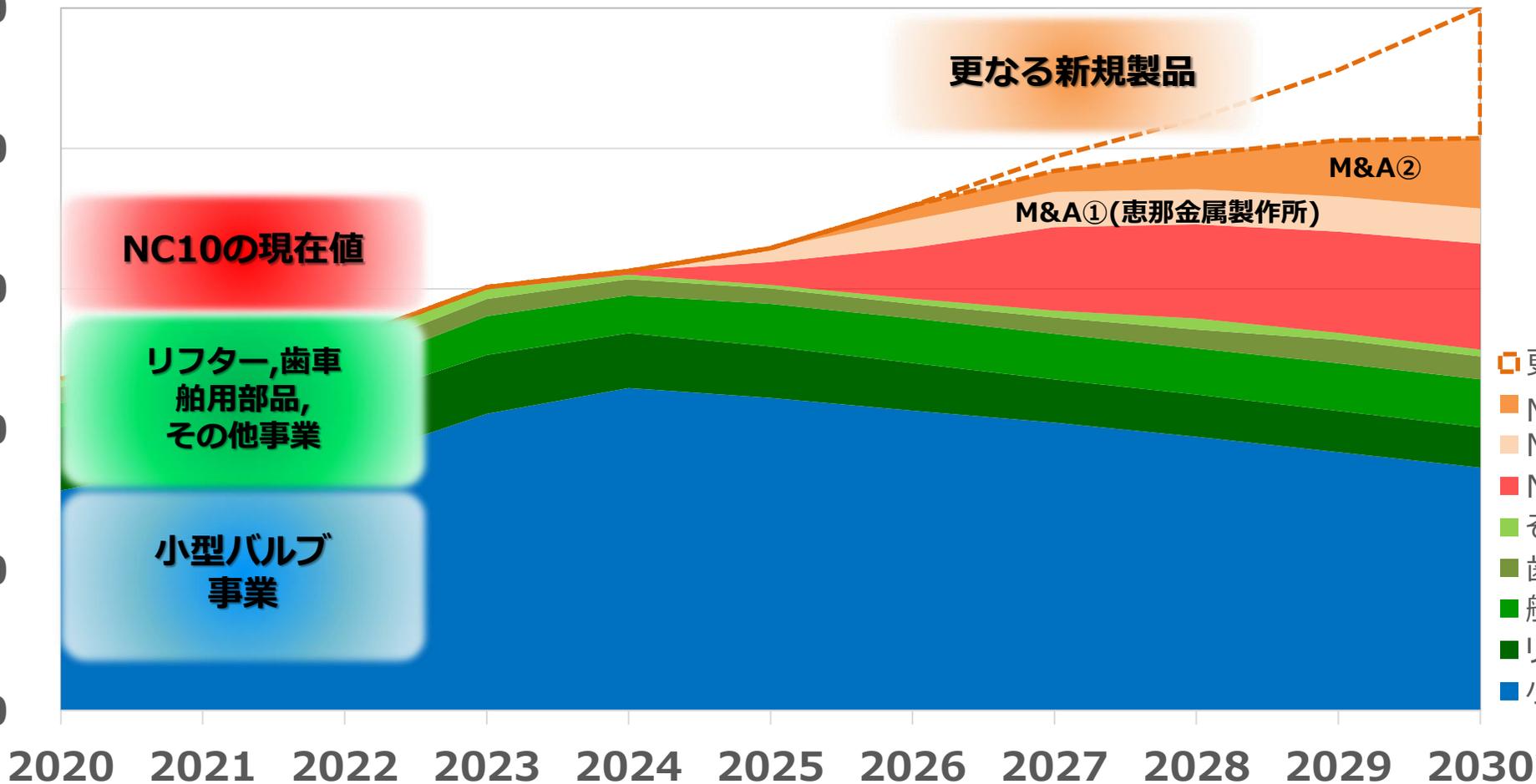
800

600

400

200

0



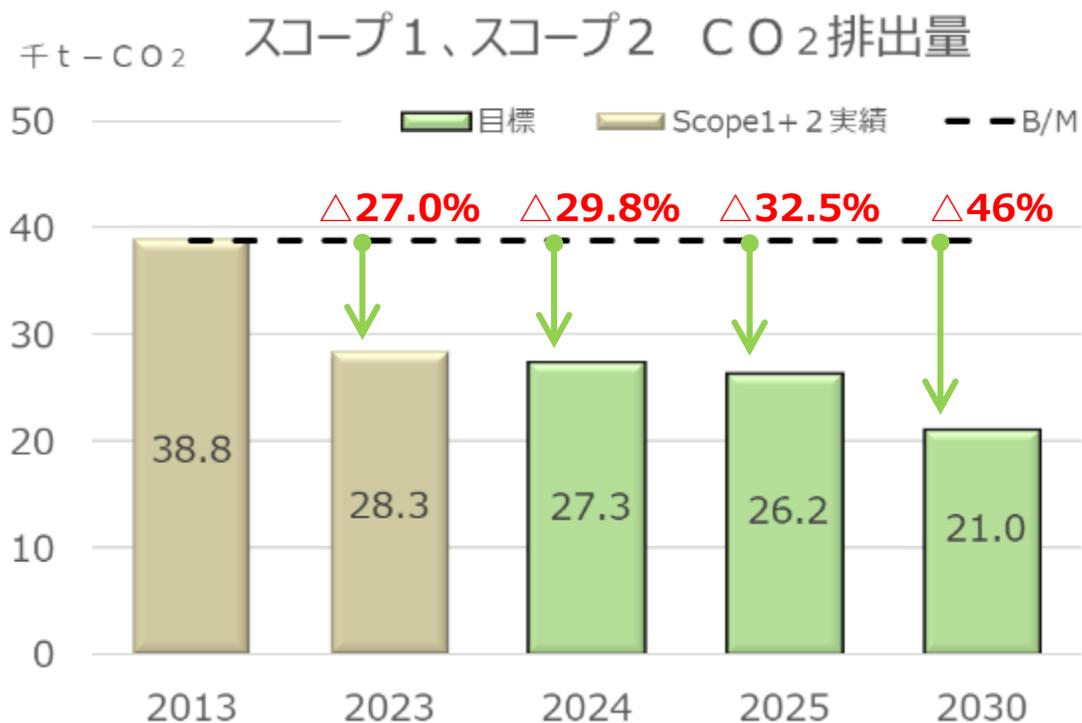
- 更なる新規製品
- M&A②
- M&A①(恵那金属)
- NC10挑戦目標
- その他
- 歯車
- 船用バルブ
- リフター
- 小型バルブ

■ M&Aによる事業拡大など、NC10目標達成のための新規製品開発も戦略的に展開していく

3-1. カーボンニュートラルに向けての活動状況について

■ **会社方針**：NITTANカーボンニュートラル（NCN）は、世界基準と推進に協調し、NC10と共に実現する
（日本政府の目標に準じ、CO₂排出量を2013年比で2030年までに46%削減を目標とする）

■ **数値目標**：2013年度 B/M：CO₂排出量
38,839 t-CO₂（スコープ1 + 2）
2030年度 目標：CO₂削減量
17,866 t-CO₂（スコープ1 + 2）



アクションプラン

再エネ活用

太陽光発電設備の設置
('30年までの目標：
'22年目標設定比約5%削減)

**カーボンフリー電力、
非化石証書の導入**
('30年までの目標：
'22年目標設定比約20%削減)

省エネ活動 (1%以上/年)

コンプレッサー
エアロス削減

空調設備
経年劣化の効率化
WBGTを用いた管理

照明機器
古いLEDの効率化

その他、生産設備

3-2. カーボンニュートラル達成に向けた取り組み

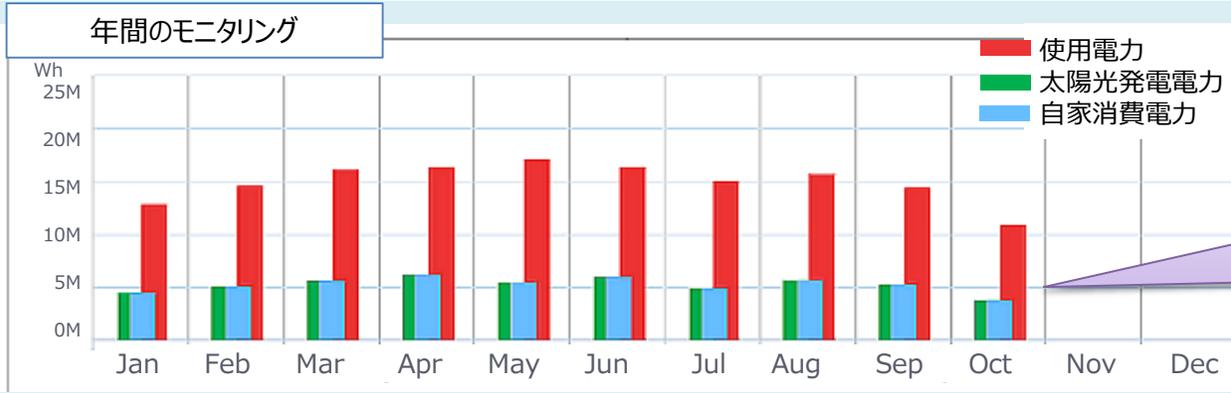
■主な取り組み 再エネ活用（太陽光発電の積極的な活用）

2024年発電状況

ニッタンタイランド 屋根 約512kw



2018年7月稼働



使用電力の約3割を太陽光発電によりまかっています

発電量 472,231kwh CO₂削減量 282.7 t -CO₂

FNI(インドネシア)
野建て 約250kw



2024年1月稼働

発電量196,718kwh
削減量133.8 t -CO₂

ニッタンベトナム
屋根 約378kw相当



2024年5月稼働

発電量131,283kwh
削減量88.8 t -CO₂

新和精密（韓国）
カーポート 約187kw



2024年2月稼働

発電量178,327kwh
削減量83.2 t -CO₂

計画状況



インドアテック



事務厚生棟

- ニッタンインドアテック（インド）約472kw
2024年 11月稼働
- 本社工場（厚生棟）約120kw
2025年 3月稼働
- 広州日鍛（中国）約330kw 計画・申請中
- 山陽工場 構想中
- インドネシア第2期 構想中
- 本社工場(技術センター) 計画見直し構想中

4. NITTANグループのCSR、SDGs活動状況について



ベトナムの子会社では、2024年9月にバクニン市のみならず都市部の子供達や障害者へ愛を分かち合うための寄付を実施



ベトナムの子会社では、2024年2月にバクニン赤十字社に椅子とテーブルを寄付



タイの子会社では、2024年3月にチョンブリ県にあるWat Samed Schoolを訪問し、寄付を実施



NITTAN および 中国・日照市、広州市の子会社では、植樹行事に参加

■ SDGs17の目標中、「貧困をなくそう」「質の高い教育を皆に」「陸の豊かさを守ろう」の3つのテーマを実践

注意事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記載は、本資料の発表日現在入手可能な情報及び仮定に基づき記載しており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、今後様々な要因によって、大きく異なる結果となる可能性があります。

お問い合わせ

株式会社NITTAN 総務部

電話：0463-82-1311 F A X：0463-82-7413

U R L： <https://www.niv.co.jp>

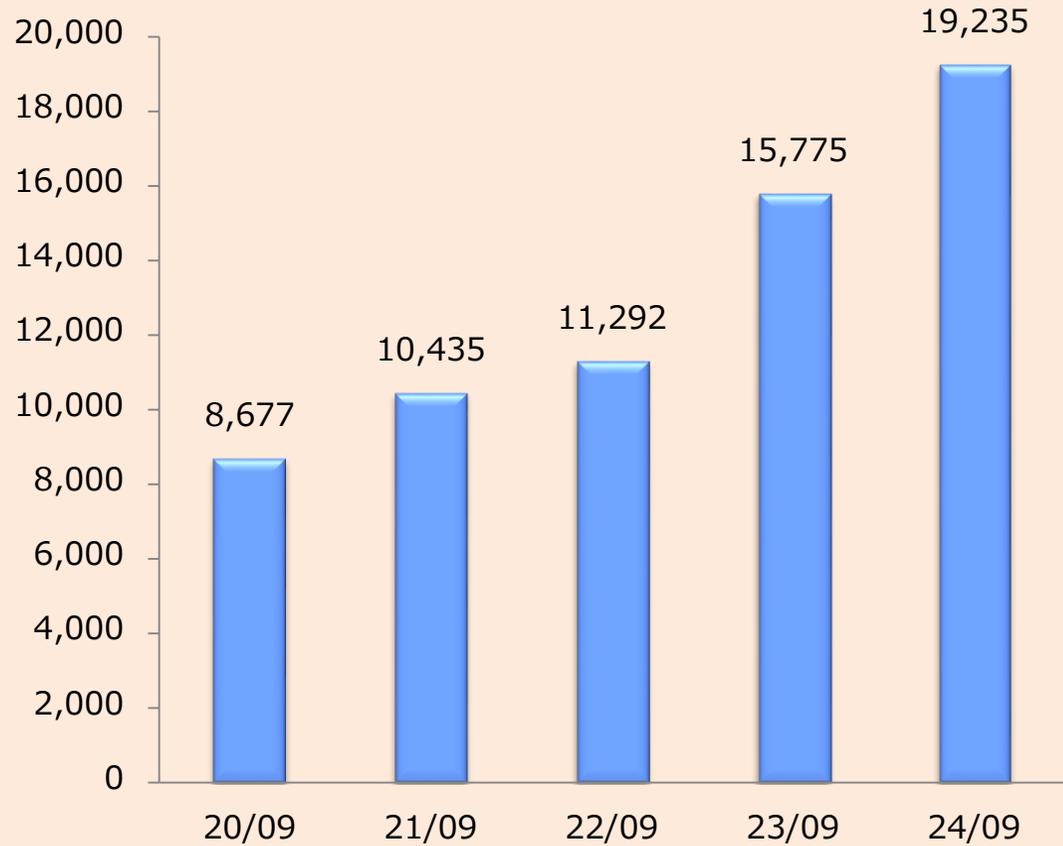


ご参考：小型エンジンバルブ 売上動向



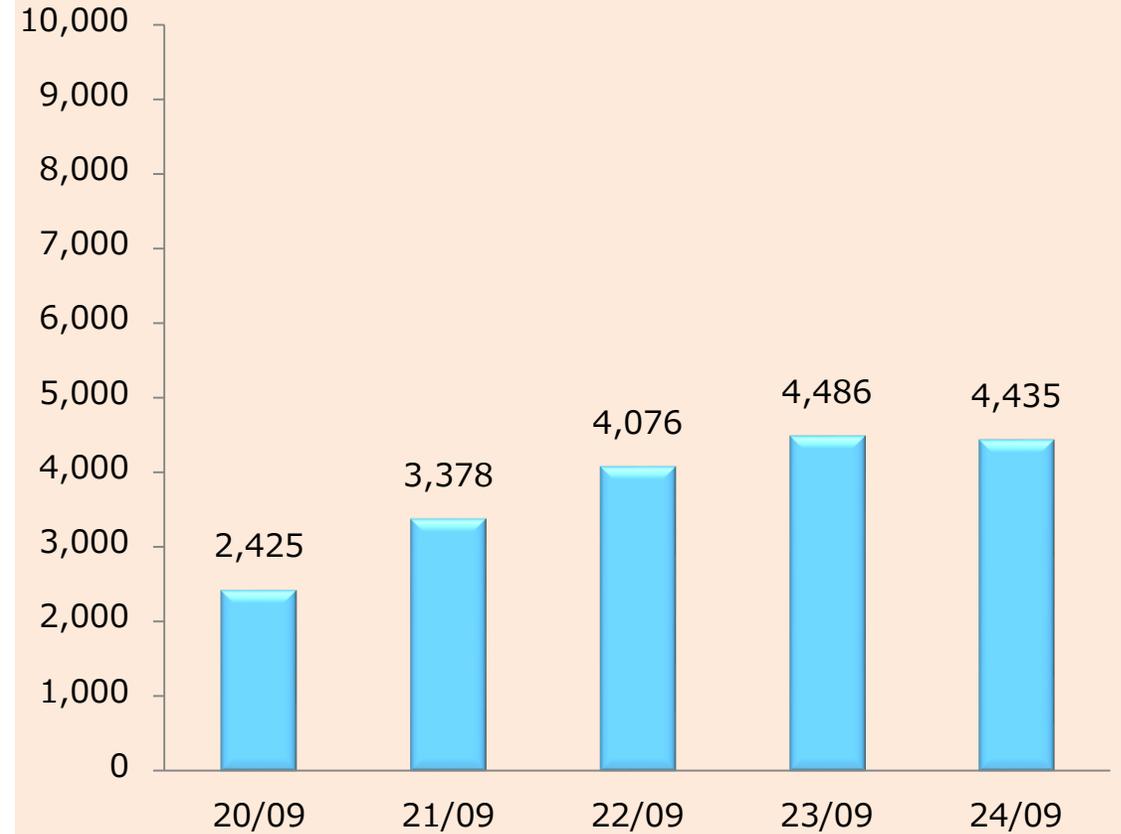
4輪車用エンジンバルブ

(単位：百万円)



2輪車用エンジンバルブ

(単位：百万円)



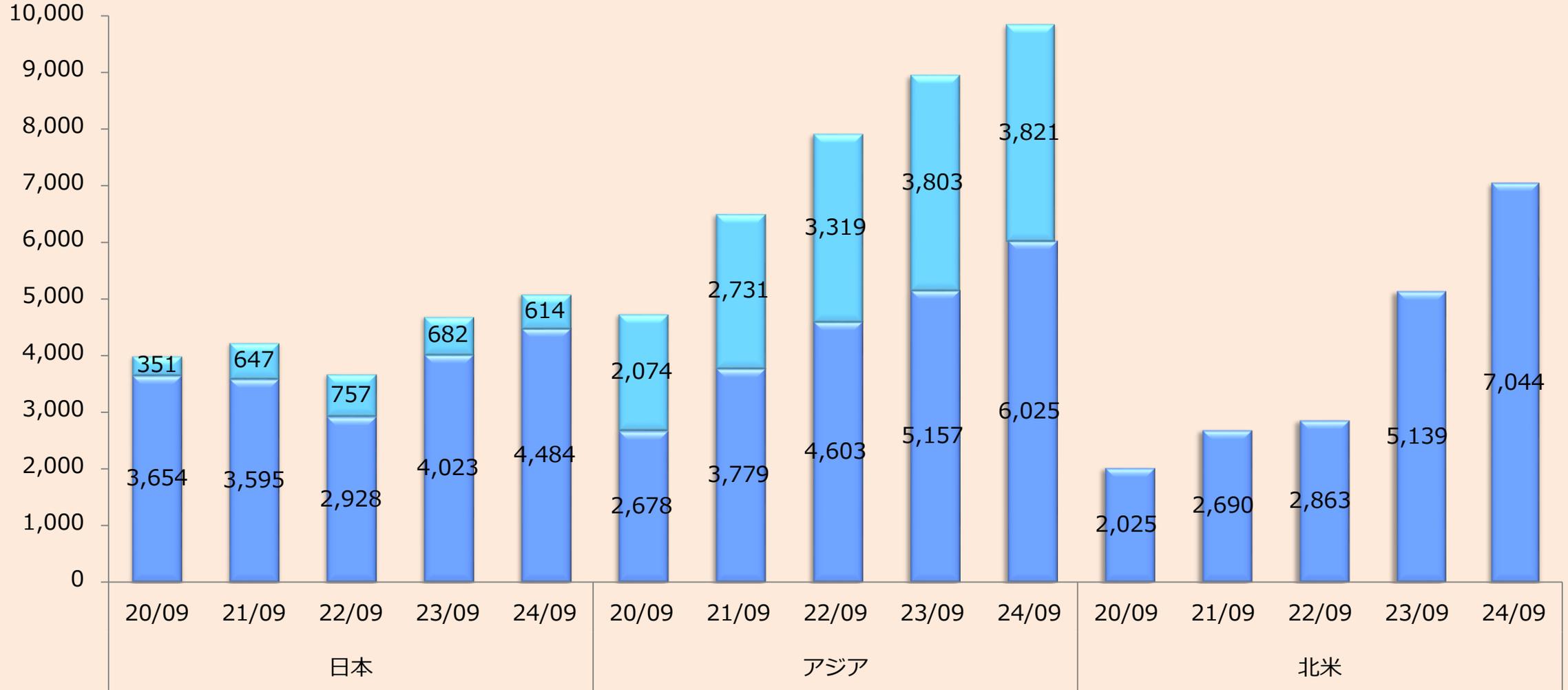
注：連結消去前の数値により集計しております。

ご参考：所在地別エンジンバルブ売り上げ動向



(単位：百万円)

■ 4輪 ■ 2輪



注：連結消去前の数値により集計しております。また、欧州（4輪）は省略しております。